調査結果の概要

調査結果の概要は、報告書から主な調査結果を抜粋したものである。

本調査は、身体障害者、知的障害者、精神障害者及び難病患者それぞれの調査票により実施した。 調査結果は、報告書の「第2章 身体障害者の状況(21p~100p)」「第3章 知的障害者の状況(101p~163p)」「第4章 精神障害者の状況(165p~229p)」「第5章 難病患者の状況(231p~307p)」に それぞれの障害、難病ごとに掲載した。

また、それぞれの障害及び難病の調査票に共通で、相互に比較することが可能なものは、「第6章 身体障害者・知的障害者・精神障害者・難病患者の状況(309p~331p)」に掲載した。

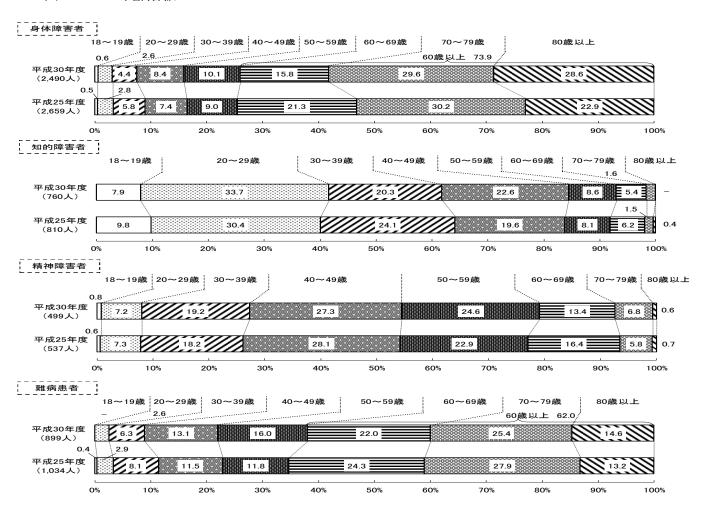
○ 身体障害者・知的障害者・精神障害者・難病患者の状況

※報告書「第6章 身体障害者・知的障害者・精神障害者・難病患者の状況 (309p~331p)」から の主な調査結果の抜粋

1 回答者の概況(年齢階級)

回答者の年齢階級をみると、身体障害者では70代の割合が29.6%、知的障害者では20代が33.7%、精神障害者では40代が27.3%、難病患者では70代が25.4%となっている。60歳以上の割合について、身体障害者では73.9%、難病患者では62.0%となっている。(図VI-1-2 本文310p)

図VI-1-2 年齢階級



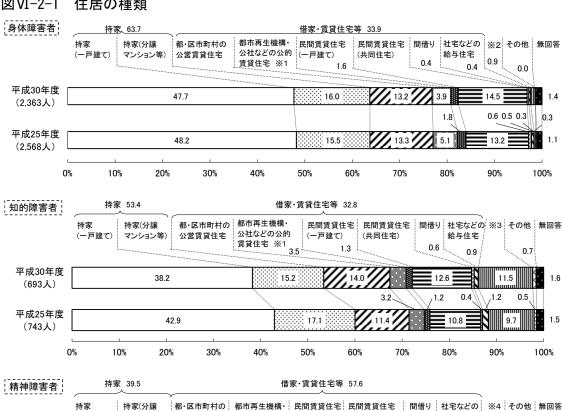
住居の種類

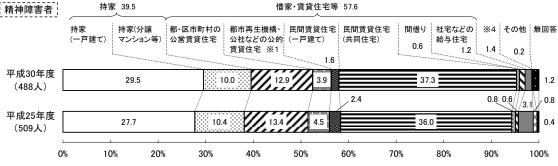
在宅で生活している人に住居の種類を聞いたところ、「持家」の割合は、身体障害者では 63.7%、 知的障害者では53.4%、精神障害者では39.5%、難病患者では69.7%となっている。

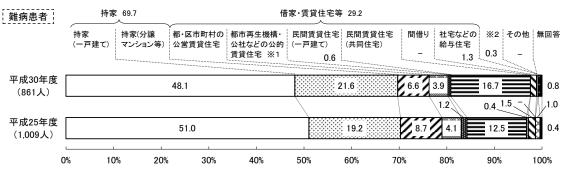
(図VI-2-1 本文 311p)

注) 住居の種類については、所有、賃貸の名義が対象者本人と限定していない。そのため、家族等の名義になっている場 合も含まれており、必ずしも対象者本人が住居の所有者又は賃貸の名義人とは限らない。

図VI-2-1 住居の種類







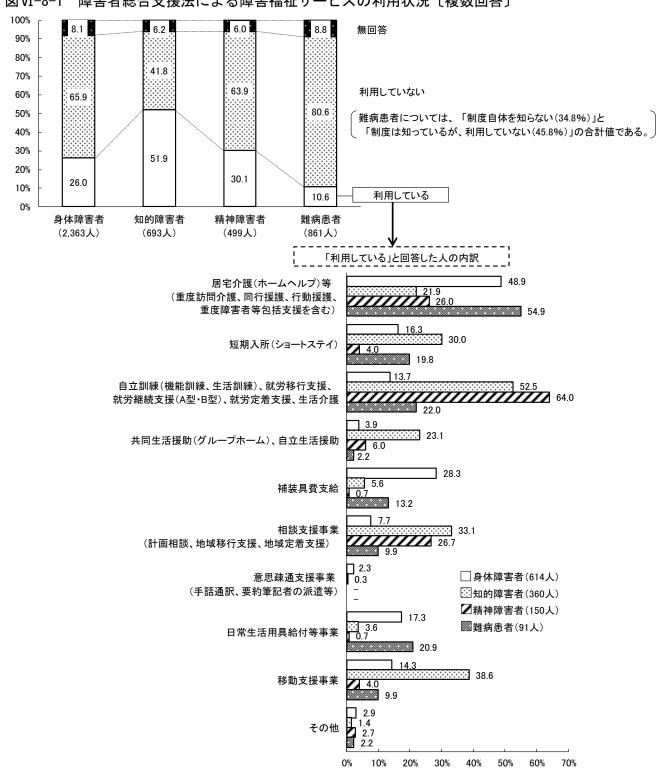
- 注1) ※1は、平成25年度調査では「都市機構(旧公団)・公社などの賃貸住宅」としていた。
 - 2) ※2は、福祉ホーム、グループホーム、重度身体障害者グループホームである。なお、平成25年度調査では「福 祉ホーム、グループホーム、ケアホーム、重度身体障害者グループホーム」としていた。
 - 3) ※3は、グルーブホームである。なお、平成25年度調査では「グループホーム、ケアホーム」としていた。
 - 4)※4は、福祉ホーム、グループホームである。なお、平成25年度調査では「福祉ホーム、グループホーム、ケア ホーム」としていた。

3 障害者総合支援法による障害福祉サービス等の利用状況〔複数回答〕

在宅で生活している人に、過去1年間の障害者総合支援法による障害福祉サービスの利用状況を聞いたところ(※)、「利用している」の割合は、身体障害者では26.0%、知的障害者では51.9%、精神障害者では30.1%、難病患者では10.6%となっている。

利用したサービスの内容は、身体障害者及び難病患者では「居宅介護(ホームヘルプ等)」の割合がそれぞれ 48.9%、54.9%、知的障害者及び精神障害者では「自立訓練、就労移行支援、就労継続支援、就労定着支援、生活介護」がそれぞれ 52.5%、64.0%となっている。 (図VI-8-1 本文 323p) 注) ※精神障害者は全員に質問

図Ⅵ-8-1 障害者総合支援法による障害福祉サービスの利用状況〔複数回答〕



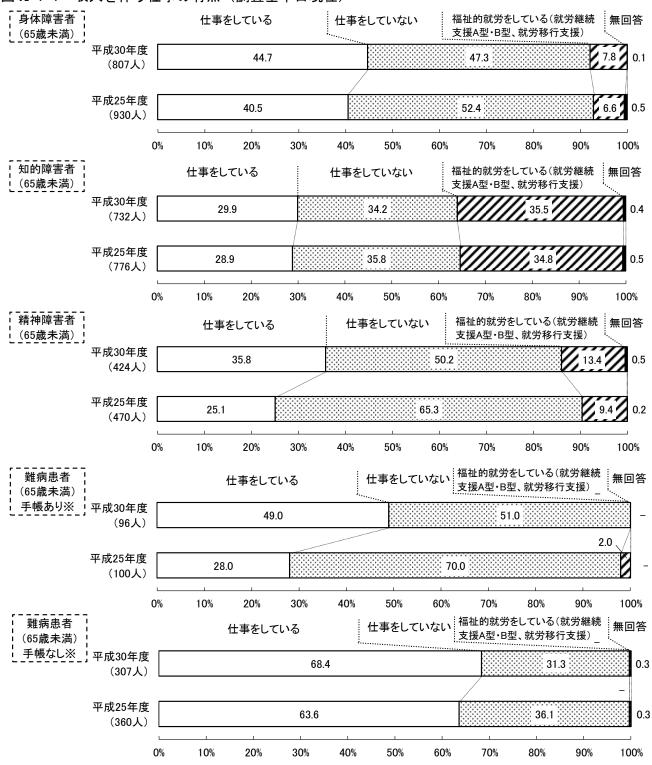
3

4 収入を伴う仕事の有無(調査基準日現在)

収入を伴う仕事をしているか聞いたところ、65 歳未満で「仕事をしている」の割合は、身体障害者では 44.7%、知的障害者では 29.9%、精神障害者では 35.8%、難病患者の手帳(※) ありでは 49.0%、手帳なしでは 68.4%となっている。「福祉的就労をしている」の割合は、身体障害者では 7.8%、知的障害者では 35.5%、精神障害者では 13.4%、難病患者では該当者がいなかった。

平成 25 年度調査と比べて、「仕事をしている」の割合は、精神障害者では 10.7 ポイント増加している。 (図VI-7-1 本文 319p)

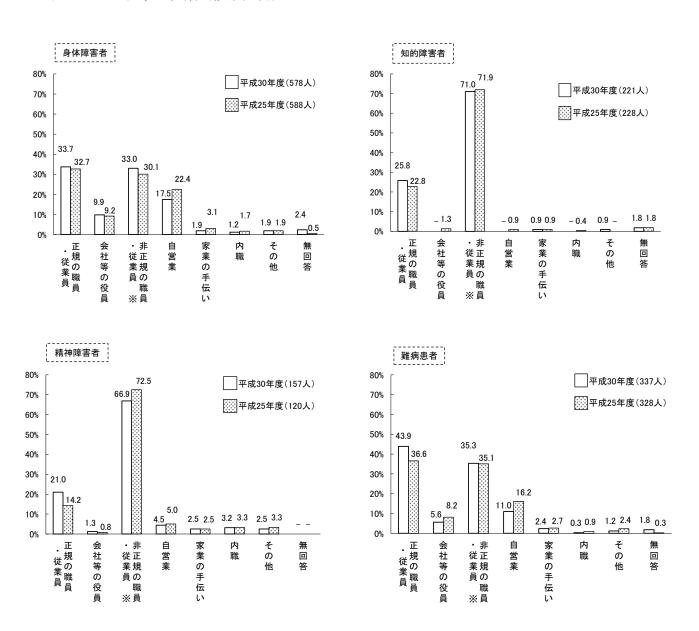
図Ⅵ-7-1 収入を伴う仕事の有無(調査基準日現在)



5 仕事の種類〔複数回答〕

仕事をしている人に仕事の種類を聞いたところ、身体障害者及び難病患者では「正規の職員・従業員」の割合がそれぞれ 33.7%、43.9%となっている。知的障害者及び精神障害者では「非正規の職員・従業員」の割合が最も高くなっている(知的障害者 71.0%、精神障害者 66.9%)。(図VI-7-2本文 320p)

図Ⅵ-7-2 仕事の種類〔複数回答〕

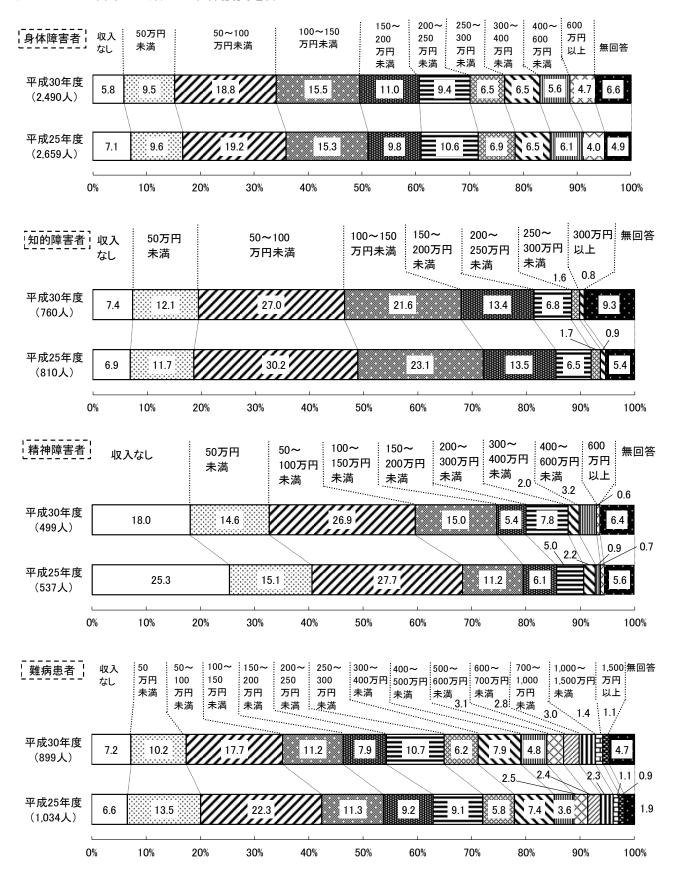


注)※非正規の職員・従業員には、「パート・アルバイト・日雇等(契約職員、派遣職員)」を含む。

6 年間収入額(生活保護費を除く)

平成29年中の収入額(生活保護費を除く)を聞いたところ、「50~100万円未満」の割合は、身体障害者では18.8%、知的障害者では27.0%、精神障害者では26.9%、難病患者では17.7%となっている。 (図VI-5-1 本文314p)

図VI-5-1 年間収入額(生活保護費を除く)

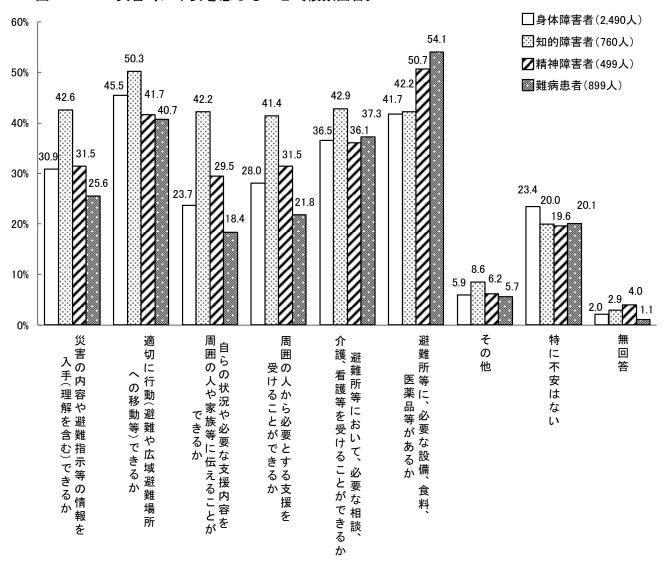


7 災害関係

(1) 災害時に不安を感じること〔複数回答〕

災害時に不安を感じることを聞いたところ、身体障害者及び知的障害者では「適切に行動(避難や広域避難場所への移動等)できるか」と答えた割合がそれぞれ 45.5%、50.3%、精神障害者及び難病患者では「避難所等に、必要な設備、食料、医薬品等があるか」と答えた割合がそれぞれ 50.7%、54.1%となっている。 (図VI-11-1 本文 330p)

図Ⅵ-11-1 災害時に不安を感じること〔複数回答〕

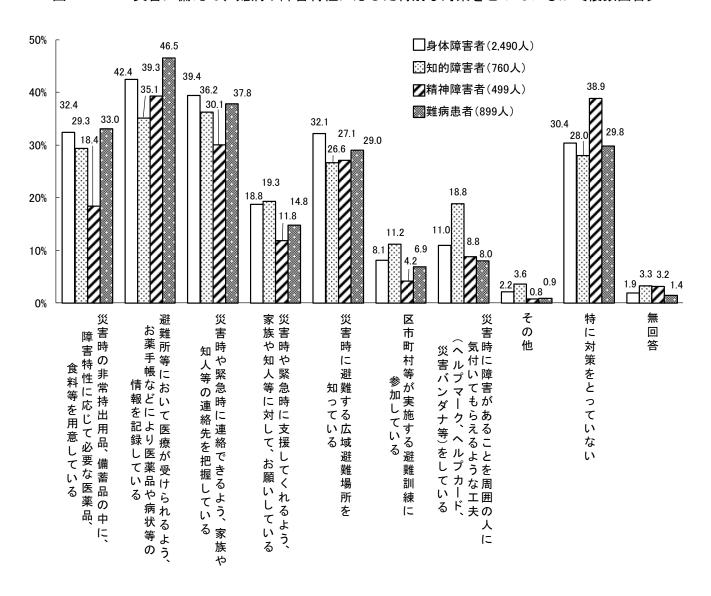


(2) 災害に備えて、難病や障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕

災害に備えて、難病や障害特性に応じた特別な対策をとっているかを聞いたところ、身体障害者、精神障害者及び難病患者では「避難所等において医療が受けられるよう、お薬手帳などにより医薬品や病状等の情報を記録している」と答えた割合がそれぞれ42.4%、39.3%、46.5%、知的障害者では「災害時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人等の連絡先を把握している」と答えた割合が36.2%となっている。

また、「特に対策をとっていない」と回答した人は、精神障害者では 38.9%となっている。 (図VI-11-2 本文 331p)

図Ⅵ-11-2 災害に備えて、難病や障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕



○ 身体障害者 2.490 人(回答者)の状況

※報告書「第2章 身体障害者の状況 (21p~100p)」からの主な結果の抜粋

1 就労の状況

(1) 収入を伴う仕事の有無(調査基準日現在) - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

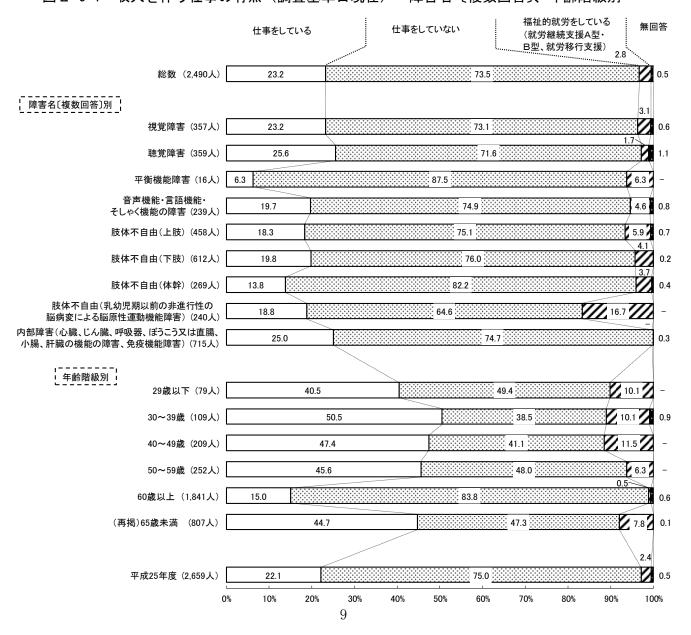
「仕事をしている」 人は 65歳未満では 44.7%

収入を伴う仕事をしているか聞いたところ、「仕事をしている」の割合が23.2%、「仕事をしていない」が73.5%、「福祉的就労をしている」が2.8%となっている。

障害名別にみると、「仕事をしている」の割合は、聴覚障害では 25.6%、「福祉的就労をしている」の割合は、肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)では 16.7%となっている。

年齢階級別にみると、「仕事をしている」の割合は、65 歳未満では 44.7% となっている。 (図 II-5-1 本文 47p)

図Ⅱ-5-1 収入を伴う仕事の有無(調査基準日現在)ー障害名〔複数回答〕、年齢階級別



(2) 仕事の種類〔複数回答〕-障害名〔複数回答〕、年齢階級別

※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した578人が対象

せいき しょくいん じゅうぎょういん わりあい 正規の職員・従業員の割合が33.7%

仕事の種類を聞いたところ、「正規の職員・従業員」の割合が33.7%、「非正規の職員・従業員 (パート・アルバイト・日雇等(契約職員、派遣職員を含む))」が33.0%、「自営業」が17.5% となっている。

障害名別にみると、「正規の職員・従業員」の割合は、聴覚障害及び肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)では4割を超えている(44.6%、44.4%)。

年齢別にみると、「正規の職員・従業員」の割合は、29歳以下及び30代では6割を超えている(62.5%、65.5%)。 (表 II -5-1 本文48p)

表 II-5-1 仕事の種類〔複数回答〕-障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総数	正規の職員・従業員	会社等の役員	派遣職員を含む))日雇等(契約職員、(パート・アルバイト・非正規の職員・従業員	自営業	家業の手伝い	内職	その他	無回答
総数		100.0 (578)	<u>33.7</u>	9.9	33.0	<u>17.5</u>	1.9	1.2	1.9	2.4
身 体	視覚障害	100.0 (83)	36.1	10.8	30.1	19.3	-	-	6.0	
障 害	聴覚障害	100.0 (92)	44.6	4.3	35.9	12.0	1.1	-	-	3.3
者手	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (47)	34.0	10.6	29.8	17.0	4.3	-	-	6.4
· 帳 の 障	肢体不自由(上肢)	100.0	36.9	10.7	35.7	10.7	-	2.4	1.2	2.4
害名	肢体不自由(下肢)	100.0 (121)	27.3	5.8	40.5	14.0	4.1	4.1	2.5	2.5
〔 複 数	肢体不自由(体幹)	100.0	37.8	21.6	29.7	8.1	-	-	-	2.7
回答	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の 脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (45)	<u>44.4</u>	6.7	37.8	2.2	-	-	4.4	4.4
別	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は 直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (179)	31.8	11.7	27.9	25.1	2.2	1.1	1.7	1.7
	29歳以下	100.0	<u>62.5</u>	3.1	28.1	-	-	3.1	-	3.1
	30~39歳	100.0 (55)	<u>65.5</u>	1.8	29.1	1.8	-	-	-	1.8
年齢	40~49歳	100.0	48.5	4.0	31.3	7.1	-	1.0	3.0	5.1
階 級 別	50~59歳	100.0	49.6	7.0	33.0	6.1	-	0.9	0.9	2.6
נינ <i>ו</i>	60歳以上	100.0	12.3	15.5	35.0	31.0	4.0	1.4	2.5	1.4
	(再掲)65歳以上	100.0 (217)	8.8	17.1	33.2	34.6	3.2	1.8	2.8	1.8
平成	25年度	100.0 (588)	32.7	9.2	30.1	22.4	3.1	1.7	1.9	0.5

注)身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別のうち、平衡機能障害は、母数が少数であるため、省略した。

(3) 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

- 性別、障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・日雇等(契約職員、派遣職員を含む))である440人が対象

仕事をしていく上で困ることは、総数では「通勤時の混雑」の割合が 13.9%。また、障害の種類によって困ることが異なる

仕事をしていく上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」の割合が 55.5%、「困ることは特にない」が 41.4%となっている。困ることの内容は、「通勤時の混雑」の割合が 13.9% となっている。

障害名別にみると、視覚障害、肢体不自由(下肢)及び肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)では「通勤時の混雑」の割合がそれぞれ23.8%、15.7%、22.5%、聴覚障害では「相手の言っていることが分からない」が53.2%、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害では「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」が41.2%、肢体不自由(上肢)及び肢体不自由(体幹)では「人間関係(職場内でのいじめなど)」がそれぞれ15.7%、21.2%、内部障害では「定期的な通院や健康管理との両立」が16.5%となっている。

仕事の種類別にみると、「困ることがある」の割合は、正規の職員・従業員では 63.6%となっている。 (表 II-5-4 本文 55p)

表 II-5-4 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

ー性別、障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

		総数	困ることがある	仕事の内容	いじめなど)(職場内での人間関係	伝わらない相手に対して、	分からない相手の言って	不十分 ボリアフリー 化が ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	勤務時間・日数	通勤距離・時間	通勤時の混雑	健康管理との両立定期的な通院や	への配慮がない 急な体調の変化	その他	特にない困ることは	無回答
総数		100.0 (440)	<u>55.5</u>	10.9	9.8	10.0	10.7	7.0	4.8	8.0	13.9	10.0	3.6	11.4	41.4	3.2
性	男	100.0 (301)	53.2	9.0	7.3	9.6	10.3	7.0	4.7	8.3	15.6	10.3	2.7	11.3	43.9	3.0
別	女	100.0 (139)	60.4	15.1	15.1	10.8	11.5	7.2	5.0	7.2	10.1	9.4	5.8	11.5	36.0	3.6
	視覚障害	100.0 (63)	65.1	15.9	7.9	3.2	1.6	7.9	3.2	7.9	23.8	7.9	1.6	27.0	31.7	3.2
身	聴覚障害	100.0 (77)	75.3	10.4	20.8	20.8	<u>53.2</u>	7.8	1.3	3.9	10.4	5.2	1.3	11.7	18.2	6.5
7 体障害	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (34)	55.9	14.7	5.9	<u>41.2</u>	5.9	2.9	2.9	2.9	5.9	11.8	5.9	8.8	41.2	2.9
複害 数者 回手	肢体不自由(上肢)	100.0 (70)	54.3	14.3	<u>15.7</u>	10.0	8.6	14.3	2.9	5.7	14.3	4.3	2.9	10.0	42.9	2.9
答帳	肢体不自由(下肢)	100.0 (89)	57.3	14.6	11.2	3.4	2.2	11.2	2.2	9.0	<u>15.7</u>	12.4	1.1	14.6	41.6	1.1
別障害	肢体不自由(体幹)	100.0 (33)	51.5	6.1	21.2	12.1	-	18.2	-	12.1	18.2	9.1	6.1	6.1	45.5	3.0
名	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の 脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (40)	57.5	12.5	7.5	20.0	15.0	7.5	-	10.0	22.5	5.0	5.0	5.0	42.5	=
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は 直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (127)	42.5	5.5	3.9	2.4	0.8	2.4	11.8	10.2	11.0	<u>16.5</u>	5.5	4.7	52.8	4.7
複仕	正規の職員・従業員	100.0 (195)	<u>63.6</u>	13.3	11.3	11.3	15.4	7.7	5.6	10.3	17.4	14.4	2.6	13.3	33.8	2.6
数事 回の 答種	会社等の役員	100.0 (57)	45.6	7.0	1.8	12.3	5.3	3.5	1.8	7.0	10.5	8.8	3.5	14.0	54.4	=
立 類 別	非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・ 日雇等(契約職員、派遣職員を含む))	100.0 (191)	49.7	9.4	11.0	7.9	7.9	7.3	4.7	5.8	11.0	6.3	4.7	8.4	45.5	4.7

注)身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別のうち、平衡機能障害は、母数が少数であるため、省略した。

2 経済基盤

(1) 収入の種類〔3つまでの複数回答〕-障害名〔複数回答〕、年齢階級別

| 収入 の種類は「年金・恩 給」の割合が最も高く78.0%

平成 29 年中の収入の種類を聞いたところ、「年金・恩給」の割合が 78.0%で最も高く、また、「賃金・給料」が 19.6%、「手当」が 15.9%となっている。

年齢階級別にみると、30 代から 50 代では「賃金・給料」の割合がいずれも4割を超えている (30 代 52.3%、40 代 44.0%、50 代 44.8%)。 (表 Π -6-1 本文 62p)

表 II-6-1 収入の種類〔3つまでの複数回答〕-障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総 数	賃金·給料	事業所得	内職収入	家賃・地代	利子·配当	仕送り・小遣い	養育費・慰謝料	年金・恩給	生活保護費	手当	雇用保険	保険金·補償金	作業所等の工賃	その他の収入	収入はなかった	無回答
総数		100.0 (2.490)	19.6	3.2	0.4	5.2	2.2	2.0	0.1	78.0	7.8	15.9	0.4	1.0	2.0	2.2	2.5	1.4
	視覚障害	100.0 (357)	21.0	4.2	-	6.2	1.1	0.8	-	72.3	10.9	14.8	0.3	0.6	1.7	1.1	4.5	1.1
	聴覚障害	100.0 (359)	21.7	1.9	0.6	4.2	2.5	3.1	-	80.5	5.8	11.7	0.3	1.4	8.0	2.5	2.2	1.4
身 体	平衡機能障害	100.0	6.3	-	-	-	6.3	-	-	75.0	-	12.5	-	18.8	6.3	6.3	6.3	12.5
[複数回答公]	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	17.2	1.3	8.0	8.4	2.5	0.4	-	76.6	8.8	11.3	1.7	2.5	3.8	3.3	3.3	1.7
数目生	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	16.8	2.2	0.4	2.8	2.0	2.8	0.2	77.9	9.6	23.4	0.7	0.7	5.0	2.6	3.1	1.5
<u></u>	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	16.7	2.5	0.7	3.8	2.3	3.3	0.2	81.4	7.2	16.2	0.3	0.5	2.8	2.3	1.5	1.6
別常名	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	13.0	1.5	-	2.6	1.5	2.6	0.4	81.8	8.2	32.0	-	1.5	1.9	1.5	2.6	1.5
11	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の 脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0	17.5	0.8	-	0.4	1.3	1.3	-	79.6	5.8	47.5	0.8	1.3	13.8	2.5	2.9	2.1
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は 直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	20.3	4.5	0.4	6.4	2.4	1.3	-	79.0	8.5	11.7	0.3	0.6	0.1	2.8	1.7	0.8
	29歳以下	100.0	36.7	-	1.3	-	1.3	7.6	-	46.8	1.3	34.2	-	-	10.1	3.8	13.9	1.3
	30~39歳	100.0	<u>52.3</u>	-	0.9	-	2.8	1.8	-	62.4	1.8	47.7	0.9	-	8.3	0.9	-	-
	40~49歳	100.0	<u>44.0</u>	2.4	0.5	-	1.9	2.9	-	53.1	8.6	36.8	1.0	1.9	7.7	1.0	2.4	1.9
年齢	50~59歳	100.0 (252)	44.8	2.8	-	4.4	1.2	-	-	44.8	15.1	27.0	1.2	2.0	4.8	1.2	6.0	2.8
階 級 別	60~69歳	100.0	26.9	5.6	0.5	4.6	4.1	1.3	0.3	75.6	11.9	18.0	1.0	1.5	1.3	3.6	2.3	2.5
別	70~79歳	100.0 (736)	10.1	3.9	0.4	5.7	1.4	1.5	-	89.8	7.7	9.6	-	0.5	-	3.1	1.6	0.5
	80歳以上	100.0	2.5	2.4	0.4	8.3	2.4	2.7	0.1	91.8	4.5	4.2	0.1	0.7	-	1.4	1.4	1.3
	(再掲) 65歳以上	100.0	8.6	3.4	0.5	6.7	2.2	1.9	0.1	90.0	7.2	7.9	0.1	0.7	0.1	2.5	1.5	1.1
 平成	<u> </u>	(1,683) 100.0 (2,659)	17.9	3.0	0.6	5.9	1.8	1.4	_	77.3	7.4	20.8	0.4	0.6	1.9	1.9	3.1	1.1

(2)年間収入額(生活保護費を除く)-障害名 (複数回答)、年齢階級別

_{ねんしゅう} 年収は「50~100万円未満」の割合が 18.8%

平成 29 年中の収入額を聞いたところ、「50~100 万円未満」の割合が 18.8%、「100~150 万円 未満」が 15.5%となっている。 (表 II-6-2 本文 66p)

表 II-6-2 年間収入額(生活保護費を除く)-障害名 [複数回答]、年齢階級別

		総数	収入なし	5 0 万円未満	5 0~ 1 0 0 万円未満	100~150万円未満	150~200万円未満	200~250万円未満	250~300万円未満	300~400万円未満	400~500万円未満	500~600万円未満	600~700万円未満	7 0 0 万円以上	無回答
総数	t .	100.0 (2,490)	5.8	9.5	<u>18.8</u>	<u>15.5</u>	11.0	9.4	6.5	6.5	3.4	2.2	1.3	3.4	6.6
	視覚障害	100.0	9.5	11.2	18.5	17.9	9.5	7.3	7.3	2.0	3.1	2.8	2.0	4.2	4.8
身 体 障	聴覚障害	(357) 100.0 (359)	4.2	11.1	15.9	12.8	11.4	8.1	9.2	7.8	5.0	3.1	1.4	1.9	8.1
害者	平衡機能障害	100.0	6.3	-	12.5	31.3	-	-	12.5	-	-	-	12.5	-	25.0
手帳の	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	7.5	6.7	18.4	13.0	13.0	10.5	8.4	6.7	4.6	2.1	0.4	2.5	6.3
障害	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	5.9	10.5	17.5	19.7	10.5	9.2	3.7	5.7	2.6	1.1	1.1	2.4	10.3
名 [複	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	4.7	9.3	21.9	18.3	11.6	8.8	4.6	5.9	2.6	1.3	0.8	2.1	8.0
数回	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	5.2	10.0	22.7	16.7	12.6	10.0	1.9	5.2	2.2	1.1	0.7	3.0	8.6
答 〕 別	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の 脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	5.0	8.8	17.1	26.7	13.3	9.6	2.9	2.9	1.7	0.8	0.8	0.4	10.0
נימ	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は 直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	5.0	9.4	17.6	12.2	10.6	12.9	6.9	8.4	3.1	2.5	1.3	5.6	4.6
	29歳以下	100.0 (79)	15.2	19.0	12.7	6.3	16.5	10.1	3.8	3.8	1.3	1.3	3.8	-	6.3
	30~39歳	100.0 (109)	0.9	4.6	14.7	17.4	11.9	11.0	4.6	8.3	9.2	6.4	3.7	1.8	5.5
	40~49歳	100.0 (209)	5.7	13.9	11.5	17.2	10.0	7.7	5.3	7.7	2.9	5.3	1.4	4.3	7.2
年齢	50~59歳	100.0 (252)	13.1	8.7	10.7	15.9	6.7	6.0	4.4	6.0	7.1	4.0	4.4	7.5	5.6
階 級 別	60~69歳	100.0 (394)	7.4	8.9	17.3	19.0	8.9	8.1	5.6	6.9	3.3	2.0	0.5	4.8	7.4
	70~79歳	100.0 (736)	3.8	9.5	24.3	14.9	11.3	11.7	6.4	5.4	2.0	1.8	0.4	1.9	6.5
	80歳以上	100.0 (711)	4.1	8.4	20.3	14.3	13.1	9.3	8.7	7.5	3.1	0.7	0.8	3.0	6.8
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,683)	4.1	8.9	22.0	15.2	11.9	10.2	7.2	6.7	2.7	1.2	0.5	2.8	6.6
平成		100.0 (2,659)	7.1	9.6	19.2	15.3	9.8	10.6	6.9	6.5	3.9	2.2	1.0	3.0	4.9

3 社会参加等

(1)現在利用している施設に満足しているか-性別、年齢階級、障害名〔複数回答〕別

※平日の日中主に職場(福祉的就労の施設)又は通所施設(生活介護、デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く)で過ごしている171人が対象

現在利用している施設に満足している(「とても満足している」+「満足している」+「だいたい満足している」)割合は 71.9%。そのうち、「とても満足している」割合は 21.6%

現在利用している施設に満足しているか聞いたところ、「とても満足している」と答えた割合は21.6%で、「満足している」(22.8%)及び「だいたい満足している」(27.5%)と合わせると、71.9%となっている。

一方で、不満である(「やや不満である」(3.5%)、「不満である」(1.8%)、「とても不満である」(1.2%) の合計)と答えた割合は 6.4%となっている。 (表 Π -7-2 本文 68p)

表Ⅱ-7-2 現在利用している施設に満足しているか一性別、年齢階級、障害名〔複数回答〕別

		総数	満足している	満足している	満足している	ゆつら	不満である	不満である	不満である	無回答
総数	T.	100.0	21.6	22.8	<u>27.5</u>	16.4	3.5	1.8	<u>1.2</u>	5.3
小心又		(171)		<u>71.9</u>				<u>6.4</u>		
世	男	100.0 (96)	19.8	24.0	27.1	16.7	5.2	2.1	1.0	4.2
別	女	100.0 (75)	24.0	21.3	28.0	16.0	1.3	1.3	1.3	6.7
	29歳以下	100.0 (23)	21.7	21.7	34.8	17.4	4.3	-	-	_
	30~39歳	100.0 (30)	20.0	30.0	13.3	20.0	6.7	3.3	-	6.7
	40~49歳	100.0 (35)	25.7	28.6	14.3	20.0	2.9	-	2.9	5.7
年齢	50~59歳	100.0 (20)	25.0	5.0	45.0	15.0	-	10.0	-	-
階 級 別	60~69歳	100.0 (13)	15.4	15.4	38.5	23.1	_	_	-	7.7
נית	70~79歳	100.0	12.5	31.3	37.5	-	_	_	6.3	12.5
	80歳以上	100.0	23.5	20.6	29.4	14.7	5.9	-	-	5.9
	(再掲)65歳以上	100.0 (56)	17.9	25.0	33.9	10.7	3.6	-	1.8	7.1
身体	視覚障害	100.0	33.3	22.2	27.8	11.1	-	5.6	-	_
障害	聴覚障害	100.0	15.4	23.1	30.8	7.7	7.7	-	-	15.4
者手帳	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0	12.5	31.3	25.0	18.8	-	6.3	-	6.3
の障	肢体不自由(上肢)	100.0	18.3	28.3	28.3	13.3	5.0	1.7	1.7	3.3
害名	肢体不自由(下肢)	100.0 (56)	17.9	23.2	26.8	19.6	3.6	1.8	1.8	5.4
複	肢体不自由(体幹)	100.0 (51)	27.5	23.5	31.4	13.7	_	_	-	3.9
数回答	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の 脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (75)	25.3	21.3	17.3	22.7	5.3	1.3	1.3	5.3
台」別	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は 直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0	22.2	22.2	33.3	5.6	5.6	-	5.6	5.6

注)身体障害者手帳の障害名[複数回答]別のうち、平衡機能障害は、母数が少数のため、省略した。

(2) 社会参加をする上で妨げになっていること (3つまでの複数回答)

- 障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

しゃかいき んか しきまた 社会参加の 妨 げになっていることは、「電車やバスなどを使っての移動が不便」の割合が 20.5%、 「道路や駅などの利用が不便」が 19.0%

社会参加をする上で妨げになっていることがあるか聞いたところ、「電車やバスなどを使っての移動が不便」の割合が 20.5%、「道路や駅などの利用が不便」が 19.0%となっている。一方で、「特にない」と答えた割合は 43.4%となっている。

障害名別にみると、視覚障害では「道路や駅などの利用が不便」の割合が、肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)では「電車やバスなどを使っての移動が不便」の割合がそれぞれ3割を超えている(31.1%、34.2%)。(表 II -7-4 本文70p)

表 Ⅱ-7-4 社会参加する上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

- 障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

		総数	道路や駅などの利用が不便	移動が不便電車やバスなどを使っての	整備されていない利用する建物の設備が	利用が不便点字版が古い、破損等により	介助者がいない	情報がない		理解不足まわりの人の障害者に対する	拒否される障害を理由に施設等の利用を	適切な指導者がいない	一緒に行く仲間がいない	されていないでいます。はいないため、障害者の参加を想定していないため、	配慮がされない ※ へルプマークを持っているが、	中の色	特にない	無回答
総数		100.0 (2,490)	<u>19.0</u>	20.5	6.0	0.4	8.7	5.3	2.3	9.2	1.3	1.9	7.0	2.1	2.4	11.2	43.4	3.6
身	視覚障害	100.0 (357)	31.1	27.2	6.4	2.5	13.4	4.2	2.2	10.9	2.0	3.4	5.3	4.2	3.1	12.0	31.4	3.9
体障	聴覚障害	100.0 (359)	10.6	13.1	2.8	-	7.2	10.9	8.6	14.8	1.1	3.3	7.8	7.0	2.2	11.1	44.6	1.9
害者	平衡機能障害	100.0	6.3	25.0	-	-	25.0	12.5	-	18.8	6.3	6.3	6.3	-	-	6.3	43.8	6.3
手帳の	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	9.6	14.2	3.3	-	5.0	5.4	4.2	14.2	8.0	2.5	10.0	2.5	2.9	7.9	51.9	3.8
障 害	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	26.4	28.4	8.7	0.2	12.9	4.6	0.4	11.4	2.0	2.4	8.5	0.7	2.6	15.1	31.0	5.0
名	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	27.5	28.4	9.6	0.2	10.6	3.3	0.7	8.8	1.5	1.5	7.7	0.5	3.1	13.4	34.2	4.1
複数回	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	26.4	28.6	12.3	-	19.0	5.2	-	11.9	3.0	2.2	5.2	0.7	1.9	12.3	25.7	7.4
答	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の 脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	29.2	34.2	17.9	-	17.5	5.0	0.8	15.0	3.3	3.8	6.7	1.7	2.5	10.8	24.6	4.2
別	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は 直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	11.2	14.1	3.1	-	4.9	4.2	0.8	5.3	0.3	8.0	6.0	0.4	1.8	10.8	55.7	3.4
	自分の家	100.0 (1,766)	19.8	21.3	5.1	0.3	8.0	4.8	2.2	7.4	0.8	1.6	7.8	1.5	1.9	11.8	44.9	2.7
' @	職場(福祉的就労の施設を除く)	100.0 (354)	14.4	13.8	7.9	0.6	2.0	8.2	3.7	15.8	3.1	2.0	4.0	4.0	4.2	8.5	48.0	1.7
過ごし	職場(福祉的就労の施設)	100.0	15.8	21.1	21.1	2.6	10.5	7.9	-	23.7	5.3	13.2	7.9	7.9	10.5	2.6	23.7	5.3
た日	学校	100.0	33.3	22.2	16.7	-	-	11.1	11.1	16.7	5.6	5.6	-	16.7	-	-	38.9	-
中主に別	通所施設(生活介護、デイケア、地域活動支援 センター等を含む・福祉的就労の施設は除く)	100.0	26.3	28.6	10.5	8.0	26.3	6.0	0.8	9.8	3.0	2.3	7.5	1.5	2.3	10.5	24.8	11.3
別	入所施設	100.0 (121)	10.7	17.4	2.5	-	20.7	2.5	-	8.3	-	8.0	4.1	1.7	1.7	15.7	40.5	9.1
	その他	100.0	18.5	14.8	3.7	3.7	3.7	-	7.4	14.8	-	3.7	11.1	3.7	11.1	18.5	37.0	-
平成	25年度	100.0 (2,659)	17.4	19.0	5.8	0.4	8.8	4.7	2.1	8.3	0.9	2.1	7.0	2.7		11.1	46.6	3.2

注)※は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。

4 情報の入手やコミュニケーションの手段

(1)情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること(視覚障害者)

〔2つまでの複数回答〕

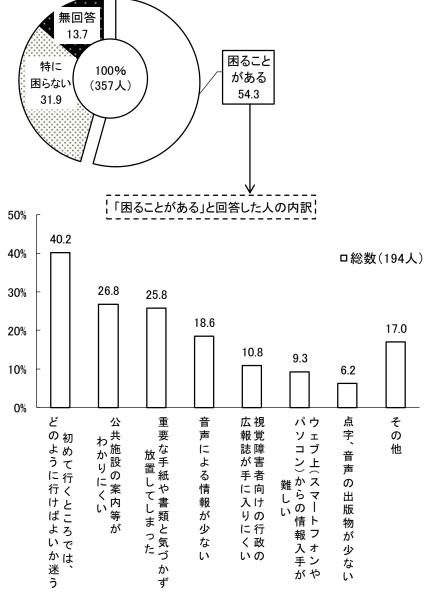
※視覚障害者 357 人が対象

しかくしょうがいしゃ じょうほう にゅうしゅ 視覚障害者が情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることは、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」の割合が 40.2%

情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ、「困ること がある」と答えた割合が 54.3%となっている。

困ることの内容では、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」の割合が 40.2% となっている。また、「その他」の割合が 17.0%で、その主な内容では「文字が読めない」、「書類の文字が小さい」等の意見が見られた。 (図 II-8-2 本文 73p)

図Ⅱ-8-2 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること(視覚障害者) 〔2つまでの複数回答〕



(2)情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること(聴覚障害者) 〔2つまでの複数回答〕

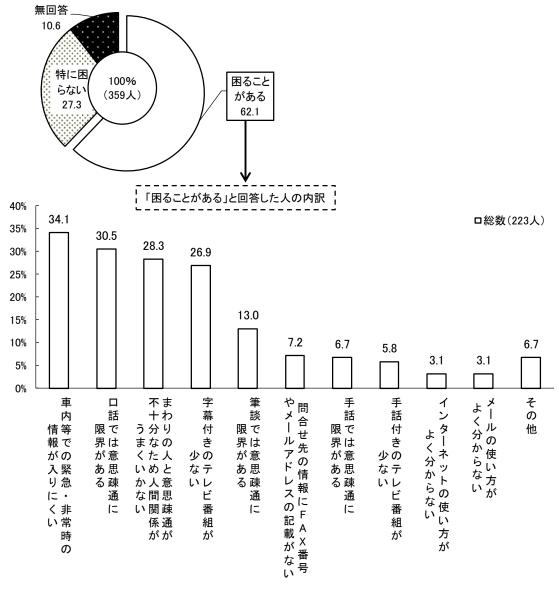
※聴覚障害者 359 人が対象

情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」と答えた割合が 62.1%となっている。

困ることの内容では、「車内等での緊急・非常時の情報が入りにくい」の割合が 34.1%、「口話では意思疎通に限界がある」が 30.5%となっている。また、「その他」の割合が 6.7%で、その主な内容では「電話の声が聞こえづらい」、「補聴器では聞き取れる音に限界がある」等の意見が見られた。 (図 II-8-4 本文 75p)

図Ⅱ-8-4 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること (聴覚障害者)

[2つまでの複数回答]



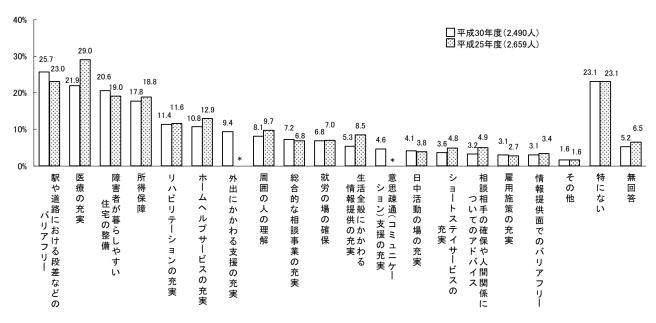
5 その他の福祉サービス等

地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

地域生活をしたり、しようとする上で、必要な福祉サービス等は何か聞いたところ、「駅や道路における段差などのバリアフリー」の割合が25.7%、「医療の充実」が21.9%、「障害者が暮らしやすい住宅の整備」が20.6%となっている。

平成 25 年度調査と比べて、「駅や道路における段差などのバリアフリー」の割合は 2.7 ポイント増加し、25.7%となっている。一方で、平成 25 年度調査と比べて、「医療の充実」の割合は 7.1ポイント減少し、21.9%となっている。 (図 II-11-1 本文 94p)

図 Ⅱ-11-1 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕



注) *は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。

○ 知的障害者 760 人(回答者)の状況

※報告書の「第3章 知的障害者の状況 (101p~163p)」からの主な結果の抜粋

※回答者別欄の「本人が回答」については、「本人が回答」及び「付き添いがいたが本人が自分の意見を回答」の合計、「本人以外が回答」については、「ほとんど付き添いの家族などの親族が回答」、「ほとんど付き添いの親族以外の人(施設職員等)が回答」及び「調査対象者本人がおらず、家族や支援者が回答」の合計である。

1 就労の状況

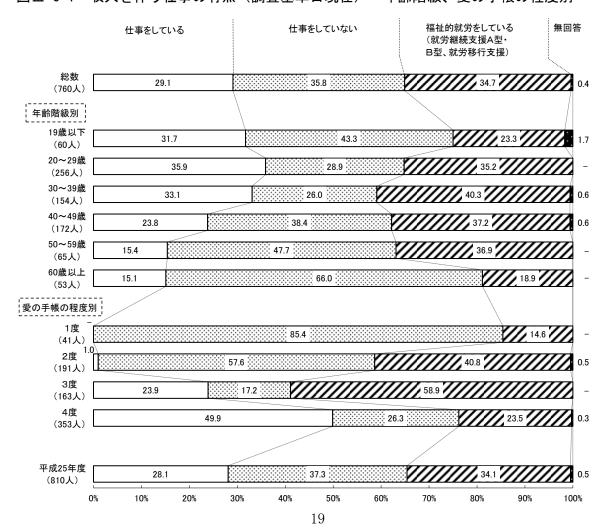
(1) 収入を伴う仕事の有無(調査基準日現在)-年齢階級、愛の手帳の程度別

「福祉的就労をしている(就労継続支援A型・B型、就労移行支援)」割合が 34.7%、「仕事をしている」割合が 29.1%

収入を伴う仕事をしているか聞いたところ、「福祉的就労をしている(就労継続支援A型・B型、 就労移行支援)」の割合が 34.7%、「仕事をしている」が 29.1%、「仕事をしていない」が 35.8% となっている。

年齢階級別にみると、30 代では「福祉的就労をしている」の割合が40.3%となっている。 愛の手帳の程度別にみてみると、4 度では「仕事をしている」の割合が49.9%、3 度では「福祉的就労をしている」が58.9%となっている。(図Ⅲ-5-1 本文119p)

図Ⅲ-5-1 収入を伴う仕事の有無(調査基準日現在)-年齢階級、愛の手帳の程度別



(2) 仕事の種類〔複数回答〕 - 年齢階級、愛の手帳の程度別

※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した221人が対象

「非正規の職員・従業員」の割合が最も高く71.0%、「正規の職員・従業員」の割合は 25.8%

仕事の種類を聞いたところ、「非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・日雇等(契約職員、派遣職員を含む))」の割合が71.0%で最も高く、また、「正規の職員・従業員」が25.8%となっている。

年齢階級別にみると、40 代では「正規の職員・従業員」の割合が34.1%となっている。 また、「非正規の職員・従業員」の割合は、10 代から40 代では6割を超えている(63.4~76.5%)。 (表Ⅲ-5-1 本文120p)

表Ⅲ-5-1 仕事の種類〔複数回答〕-年齢階級、愛の手帳の程度別

		総数	正規の職員・従業員	会社等の役員	(契約職員、派遣職員を含む))(パート・アルバイト・日雇等非正規の職員・従業員	自営業	家業の手伝い	内職	その他	無回答
総数	:	100.0 (221)	<u>25.8</u>	-	<u>71.0</u>	_	0.9	_	0.9	1.8
	19歳以下	100.0 (19)	26.3	-	<u>73.7</u>	-	_	_	_	_
年 齢	20~29歳	100.0 (92)	21.7	-	<u>73.9</u>	-	-	-	2.2	2.2
階	30~39歳	100.0 (51)	21.6	_	<u>76.5</u>	-	-	-	-	2.0
級 別	40~49歳	100.0 (41)	<u>34.1</u>	_	<u>63.4</u>	-	2.4	-	-	-
	50~59歳	100.0 (10)	50.0	-	40.0	-	-	-	-	10.0
の愛	3度	100.0	20.5	_	71.8	-	2.6	-	2.6	2.6
程の度手別帳	4度	(39) 100.0 (176)	26.7	-	71.0	-	0.6	-	0.6	1.7

注1)年齢階級別のうち、60歳以上は母数が少数のため、省略した。

²⁾ 愛の手帳の程度別のうち、1度は該当者がいないため、2度は母数が少数のため、省略した。

(3) 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

- 性別、年齢階級、愛の手帳の程度、回答者別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・日雇等(契約職員、派遣職員を含む))である214人が対象

しごと 仕事をしていく上で困ることは「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」の割合が 24.3%

仕事をしていく上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」の割合が 50.9%、「困ることは特にない」が 45.3%となっている。

困ることの内容では、「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」の割合が 24.3%となっている。

年齢階級別にみると、40 代では「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」の割合が 30.0% となっている。 (表Ⅲ-5-4 本文 125p)

表Ⅲ-5-4 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

ー性別、年齢階級、愛の手帳の程度、回答者別

						•	•									
		数	困ることがある	仕事の内容	いじめなど) 人間関係(職場内での	内容が伝わらない相手に対して、言いたい	分からない 相手の言っていることが	バリアフリー 化が不十分職場の(物理的な)	勤務時間・日数	通勤距離・時間	通勤時の混雑	との両立と明的な通院や健康管理	がない。急な体調の変化への配慮	その他	困ることは特にない	無回答
総数		100.0 (214)	<u>50.9</u>	8.9	21.0	24.3	14.0	0.9	3.7	5.1	10.3	3.3	3.3	4.2	<u>45.3</u>	3.7
性	男	100.0 (158)	51.9	9.5	20.3	25.9	13.3	1.3	4.4	4.4	8.2	2.5	3.2	3.8	46.2	1.9
別	女	100.0 (56)	48.2	7.1	23.2	19.6	16.1	-	1.8	7.1	16.1	5.4	3.6	5.4	42.9	8.9
	19歳以下	100.0 (19)	47.4	5.3	21.1	26.3	10.5	-	15.8	10.5	10.5	-	-	-	52.6	_
年	20~29歳	100.0 (88)	56.8	9.1	20.5	23.9	13.6	1.1	2.3	5.7	15.9	4.5	1.1	6.8	39.8	3.4
齢 階 級	30~39歳	100.0 (50)	48.0	12.0	26.0	24.0	16.0	-	4.0	2.0	4.0	4.0	8.0	2.0	50.0	2.0
別	40~49歳	100.0 (40)	50.0	7.5	20.0	30.0	15.0	2.5	2.5	5.0	7.5	2.5	5.0	2.5	40.0	10.0
	50歳以上	100.0 (17)	35.3	5.9	11.8	11.8	11.8	_	_	5.9	5.9	-	-	5.9	64.7	_
の 愛 程 の	3度	100.0 (36)	38.9	5.6	11.1	25.0	22.2	2.8	2.8	5.6	2.8	-	2.8	2.8	52.8	8.3
度 手 別 帳	4度	100.0 (172)	53.5	9.3	22.7	23.3	12.8	0.6	4.1	4.7	12.2	4.1	3.5	4.7	43.6	2.9
回答	本人が回答	100.0 (143)	50.3	10.5	22.4	20.3	10.5	0.7	4.2	6.3	10.5	4.2	4.2	5.6	48.3	1.4
回答者別	本人以外が回答	100.0 (40)	52.5	5.0	17.5	27.5	12.5	2.5	2.5	5.0	10.0	_	2.5	2.5	45.0	2.5

注1) 愛の手帳の程度別のうち、1度は該当者がいないため、2度は母数が少数のため、省略した。

²⁾ 回答者別のうち、回答者が不明なものは省略した。

2 経済基盤

(1) 収入の種類〔3つまでの複数回答〕-愛の手帳の程度別

収入の種類は「雑念・惣熱」の割合が最も高く63.0%。「賃金・給料」の割合は、平成25年度 動きようさ 調査よりも7.8ポイント増加し36.7%

平成 29 年中の収入の種類を聞いたところ、「年金・恩給」の割合が 63.0%で最も高く、また、「賃金・給料」が 36.7%、「手当」が 35.1%、「作業所等の工賃」が 20.9%となっている。

愛の手帳の程度別にみると、3度では「作業所等の工賃」が32.5%、4度では「賃金・給料」が55.5%となっている。

平成 25 年度調査と比べて、「賃金・給料」の割合は、7.8 ポイント増加している。 (表Ⅲ-6-1本文 132p)

表Ⅲ-6-1 収入の種類〔3つまでの複数回答〕-愛の手帳の程度別

	総数	賃金・給料	事業所得	内職収入	家賃・地代	利子·配当	仕送り・小遣い	養育費・慰謝料	年金・恩給	生活保護費	手当	雇用保険	保険金·補償金	作業所等の工賃	その他の収入	収入はなかった	無回答
総数	100.0 (760)	<u>36.7</u>	0.1	0.4	0.3	0.1	4.3	0.1	63.0	8.0	<u>35.1</u>	0.7	-	20.9	1.2	5.4	1.8
1度	100.0 (41)	9.8	-	-	-	-	-	-	75.6	2.4	63.4	-	-	7.3	2.4	2.4	-
2度	100.0 (191)	6.3	-	-	0.5	-	5.8	0.5	80.6	2.1	49.2	0.5	-	30.9	1.6	4.7	2.1
3度	100.0 (163)	39.3	-	0.6	0.6	-	4.9	-	73.6	3.7	34.4	-	-	<u>32.5</u>	1.2	5.5	0.6
4度	100.0 (353)	<u>55.5</u>	0.3	0.6	-	0.3	4.0	-	47.6	13.9	24.9	1.1	-	12.5	0.8	5.9	2.0
平成25年度	100.0 (810)	<u>28.9</u>	-	0.2	0.5	0.1	3.7	_	65.7	4.2	37.7	0.2	0.2	27.9	0.9	5.3	2.2

(2)年間収入額(生活保護費を除く)-年齢階級、愛の手帳の程度別

年収は「50~100万円未満」の割合が 27.0%

平成 29 年中の収入額を聞いたところ、「50~100 万円未満」の割合が 27.0%、「100~150 万円 未満」が 21.6%となっている。 (表Ⅲ-6-2 本文 135p)

表Ⅲ-6-2 年間収入額(生活保護費を除く)-年齢階級、愛の手帳の程度別

		総数	収入なし	50万円未満	50~100万円未満	100~150万円未満	150~200万円未満	200~250万円未満	250~300万円未満	300~400万円未満	400~500万円未満	500万円以上	無回答
総数	 数	100.0 (760)	7.4	12.1	<u>27.0</u>	<u>21.6</u>	13.4	6.8	1.6	0.5	0.1	0.1	9.3
	19歳以下	100.0 (60)	41.7	30.0	11.7	6.7	3.3	-	-	-	_	-	6.7
Æ	20~29歳	100.0 (256)	3.1	11.7	26.2	28.9	15.6	7.0	2.0	0.4	_	_	5.1
年齢	30~39歳	100.0 (154)	2.6	8.4	27.3	19.5	20.1	11.7	3.2	-	-	-	7.1
階級	40~49歳	100.0 (172)	4.7	9.3	29.1	21.5	12.8	7.0	1.2	0.6	-	-	14.0
別	50~59歳	100.0 (65)	6.2	13.8	33.8	13.8	6.2	3.1	-	1.5	1.5	1.5	18.5
	60歳以上	100.0 (53)	13.2	11.3	32.1	18.9	5.7	3.8	-	1.9	-	-	13.2
愛の	1度	100.0 (41)	2.4	9.8	36.6	4.9	19.5	12.2	2.4	-	_	2.4	9.8
の手帳	2度	100.0 (191)	5.2	9.4	25.1	31.9	13.1	4.7	-	-	-	-	10.5
の程度	3度	100.0 (163)	5.5	10.4	38.0	20.2	9.8	4.9	2.5	0.6	_	-	8.0
度別	4度	100.0 (353)	9.6	15.0	21.8	19.0	15.0	8.5	1.7	0.8	0.3	-	8.2
平原	戊25年度	100.0 (810)	6.9	11.7	30.2	23.1	13.5	6.5	1.7	0.5	0.2	0.1	5.4

3 社会参加等

(1) 現在利用している施設に満足しているか-性別、年齢階級、愛の手帳の程度、回答者別

※平日の日中主に職場(福祉的就労の施設)又は通所施設(生活介護、デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く)で過ごしている323人が対象

現在利用している施設に満足している(「とても満足している」+「満足している」+「だいたい満足している」)割合は 72.4%。そのうち、「とても満足している」割合は 26.6%

現在利用している施設に満足しているか聞いたところ、「とても満足している」と答えた割合は26.6%で、「満足している」(29.7%)及び「だいたい満足している」(16.1%)と合わせると、72.4%の人が満足していると回答している。

一方で、不満である(「やや不満である」(4.0%)、「不満である」(1.5%)、「とても不満である」(0.9%)の合計)と答えた割合は6.5%となっている。

回答者別にみると、満足している(「とても満足している」、「満足している」、「だいたい満足している」の合計)と答えた割合は、本人以外が回答した場合では75.6%、本人が回答した場合では59.2%となっている。 (表III-7-1 本文137p)

表皿-7-1 現在利用している施設に満足しているかー性別、年齢階級、愛の手帳の程度、回答者別

		総数	しているとても満足	満足している	しているだいたい満足	ふつう	やや不満である	不満である	とても不満である	無回答
総数		100.0 (323)	<u>26.6</u>	29.7 72.4	<u>16.1</u>	17.3	4.0	1.5 6.5	<u>0.9</u>	3.7
性	男	100.0 (198)	28.8	29.3	14.6	19.2	3.0	1.0	0.5	3.5
別	女	100.0 (125)	23.2	30.4	18.4	14.4	5.6	2.4	1.6	4.0
	19歳以下	100.0 (21)	28.6	28.6	9.5	9.5	-	4.8	9.5	9.5
	20~29歳	100.0	28.3	29.2	20.4	16.8	2.7	1.8	-	0.9
年齢	30~39歳	100.0	12.2	33.8	23.0	20.3	5.4	1.4	-	4.1
階級	40~49歳	100.0	35.1	22.1	11.7	18.2	6.5	-	-	6.5
別	50~59歳	100.0 (26)	23.1	50.0	-	15.4	-	3.8	3.8	3.8
	60歳以上	100.0	50.0	16.7	8.3	16.7	8.3	-	-	-
 愛 の	1度	100.0 (26)	11.5	42.3	23.1	7.7	11.5	3.8	-	_
手 帳	2度	100.0 (130)	29.2	29.2	20.0	16.2	0.8	1.5	-	3.1
の程	3度	100.0	24.0	30.2	13.5	18.8	6.3	1.0	-	6.3
· 度 別	4度	100.0	31.0	25.4	9.9	21.1	4.2	1.4	4.2	2.8
回	本人が回答	100.0	31.6	17.1	10.5	23.7	9.2	2.6	1.3	3.9
答 者		(76)	00.0	<u>59.2</u>	17.0	15.0	0.0		1.0	20 1
百 別 ———	本人以外が回答	100.0 (209)	23.9	34.4 75.6	17.2	15.3	2.9	1.4	1.0	3.8

注)回答者別については、回答者が不明のものは省略した。

(2) 社会参加をする上で妨げになっていること (3つまでの複数回答)

- 愛の手帳の程度、平日の日中主に過ごしたところ別

社会参加をする上で 妨 げになっていることは「まわりの人の障害者に対する理解不足」の割合が、 $^{\circ}$ で成25年度調査よりも 3.1 ポイント増加し 20.3%

社会参加をする上で妨げになっていることがあるか聞いたところ、「まわりの人の障害者に対する理解不足」の割合が 20.3%、「一緒に行く仲間がいない」が 15.4%、「電車やバスなどを使っての移動が不便」が 14.9%となっている。

愛の手帳の程度別にみると、1度では「電車やバスなどを使っての移動が不便」の割合が39.0% となっている。

平成 25 年度調査と比べて、「まわりの人の障害者に対する理解不足」の割合は 3.1 ポイント増加している。 (表Ⅲ-7-3 本文 139p)

表Ⅲ-7-3 社会参加する上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

一愛の手帳の程度、平日の日中主に過ごしたところ別

		総数	分からない 道路や駅などの表示が	使っての移動が不便電車やバスなどを	介助者がいない	情報がない	対する理解不足まわりの人の障害者に	利用を拒否される障害を理由に施設等の	適切な指導者がいない	一緒に行く仲間がいない	配慮がされない ※ へルプマー クを持っているが、	その他	特にない	無回答
総数		100.0 (760)	13.2	14.9	13.9	5.9	20.3	1.8	8.0	<u>15.4</u>	4.1	9.9	38.2	3.8
愛の	1度	100.0 (41)	4.9	39.0	22.0	2.4	26.8	4.9	4.9	2.4	4.9	19.5	26.8	2.4
愛の手帳	2度	100.0 (191)	18.3	14.7	26.2	5.8	28.3	1.6	8.9	7.9	4.2	14.7	22.5	5.2
	3度	100.0	18.4	20.2	16.0	6.1	20.9	1.2	9.8	23.9	3.1	8.6	29.4	4.9
の 程 度 別	4度	(163) 100.0 (353)	9.3	9.9	5.7	5.9	15.0	2.0	6.8	17.3	4.5	7.1	51.3	2.5
	自分の家	100.0 (164)	9.8	11.6	8.5	6.1	22.0	1.2	7.3	20.1	6.1	14.0	36.6	3.7
主 に	職場(福祉的就労の施設を除く)	100.0 (179)	9.5	8.4	2.8	5.0	17.3	0.6	5.6	14.0	2.2	4.5	59.2	0.6
過ごした	 職場(福祉的就労の施設)	100.0	18.5	18.5	20.5	7.2	22.1	2.6	12.8	20.0	4.1	7.7	31.3	3.1
した日の日		(195) 100.0	15.0	25.0	15.0	15.0	25.0	-	-	20.0	15.0	-	40.0	-
したところ別口の日中	通所施設(生活介護、デイケア、 地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く)	(20) 100.0 (128)	15.6	25.0	26.6	3.9	21.9	3.1	6.3	8.6	3.1	15.6	17.2	6.3
נינ <i>ו</i>	入所施設	100.0 (51)	13.7	9.8	13.7	7.8	19.6	2.0	5.9	2.0	3.9	13.7	43.1	5.9
平成2	25年度	100.0 (810)	11.9	14.1	16.5	8.9	<u>17.2</u>	1.1	8.3	16.9		9.3	38.5	4.6

注1) ※は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。

²⁾ 平日の日中主に過ごしたところ別のうち、「その他」は、母数が少数のため、省略した。

4 情報の入手やコミュニケーションの手段 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること〔2つまでの複数回答〕 - 年齢階級、愛の手帳の程度、回答者別

にょうほう にゅうしゅ 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることは「まわりの人と意思疎通が ふじゅうぶん 不十分なため人間関係がうまくいかない」の割合が 32.8%

情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」と答えた割合が 63.3%となっている。

困ることの内容では、「まわりの人と意思疎通が不十分なため人間関係がうまくいかない」の割合が32.8%、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」が30.4%となっている。

回答者別にみると、「困ることがある」の割合は、本人以外が回答した場合では 69.0%、本人が回答した場合では 55.2%となっている。 (表 \mathbf{III} -8-2 本文 143p)

表Ⅲ-8-2 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること〔2つまでの複数回答〕 - 年齢階級、愛の手帳の程度、回答者別

		総数	困ることがある	わかりにくい公共施設の案内等が	迷うところでは、初めて行くところでは、	うまくいかない不十分なため人間関係がまわりの人と意思疎通が	使い方がわからないインターネットの	よくわからないメールの使い方が	その他	特に困らない	無回答
総数	t	100.0 (760)	63.3	10.1	30.4	32.8	5.3	3.6	11.1	30.7	6.1
	19歳以下	100.0	70.0	8.3	38.3	35.0	3.3	1.7	10.0	26.7	3.3
-	20~29歳	100.0 (256)	68.0	9.4	33.2	40.2	2.3	2.0	11.7	26.2	5.9
年 齢 階	30~39歳	100.0 (154)	67.5	11.0	33.1	37.7	3.9	5.2	11.0	26.6	5.8
級別	40~49歳	100.0 (172)	57.6	10.5	23.8	24.4	8.7	4.7	12.8	35.5	7.0
נינג	50~59歳	100.0 (65)	52.3	13.8	26.2	24.6	10.8	6.2	4.6	38.5	9.2
	60歳以上	100.0 (53)	52.8	7.5	26.4	17.0	7.5	1.9	11.3	43.4	3.8
愛 の	1度	100.0 (41)	78.0	17.1	19.5	29.3	-	_	34.1	19.5	2.4
愛の手帳	2度	100.0 (191)	69.6	8.9	24.6	37.7	1.6	1.0	23.6	20.4	9.9
の程度別	3度	100.0 (163)	68.7	15.3	38.7	35.6	5.5	3.7	10.4	23.9	7.4
度 別	4度	100.0 (353)	56.4	7.9	31.7	29.2	7.9	5.4	2.0	40.2	3.4
回 答 者 別	本人が回答	100.0 (310)	<u>55.2</u>	9.4	33.9	26.1	7.7	3.9	2.9	42.3	2.6
者 <u>別</u>	本人以外が回答	100.0 (355)	<u>69.0</u>	9.6	25.9	38.3	2.5	1.7	18.9	22.8	8.2

注)回答者別のうち、回答者が不明のものは省略した。

5 その他の福祉サービス等

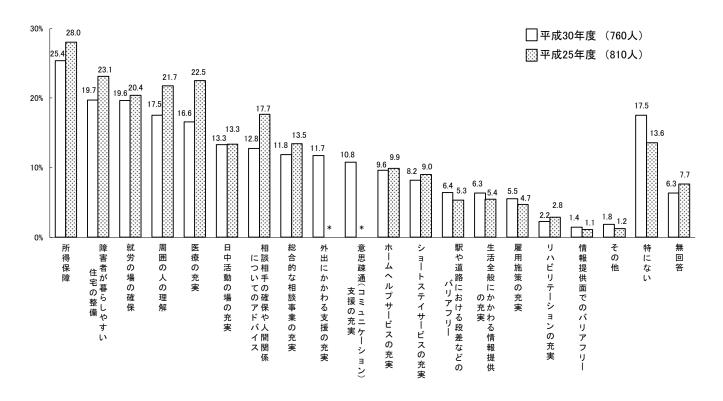
地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

へいせい ねんど ちょうき 平成25年度調査よりも「医療の充実」の割合が 5.9 ポイント減 少

地域生活をしたり、しようとする上で、必要な福祉サービス等は何か聞いたところ、「所得保障」の割合が 25.4%、「障害者が暮らしやすい住宅の整備」が 19.7%、「就労の場の確保」が 19.6% となっている。

平成 25 年度調査と比べて、「医療の充実」は 5.9 ポイント減少し、16.6%となっている。 (図Ⅲ-11-1 本文 157p)

図Ⅲ-11-1 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕



注) *は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。

○ 精神障害者 499 人(回答者)の状況

※報告書の「第4章 精神障害者の状況 (165p~229p)」からの主な結果の抜粋

1 就労の状況

(1) 収入を伴う仕事の有無(調査基準日現在) - 年齢階級別

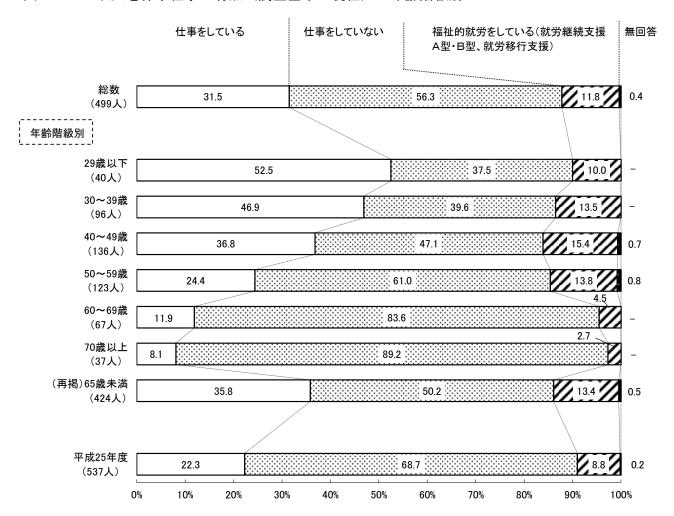
「仕事をしている」 人の割合は、平成25年度調査よりも 9.2 ポイント増加し 31.5%、「仕事をしていない」 人は 12.4 ポイント減少し 56.3%

収入を伴う仕事をしているか聞いたところ、「仕事をしている」の割合が 31.5%、「仕事をしていない」が 56.3%、「福祉的就労をしている」が 11.8%となっている。

年齢階級別にみると、「仕事をしている」の割合は、29歳以下及び30代では、それぞれ52.5%、46.9%となっている。

平成 25 年度調査と比べて、「仕事をしている」の割合は、9.2 ポイント増加し、「仕事をしていない」は、12.4 ポイント減少している。 (図IV-5-1 本文 186p)

図Ⅳ-5-1 収入を伴う仕事の有無(調査基準日現在)-年齢階級別



(2) 仕事の種類〔複数回答〕-年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した157人が対象

ひせいき しょくいん じゅうぎょういん わりあい もっと たか 「非正規の職員・従業員」の割合が最も高く 66.9%、「正規の職員・従業員」の割合は 21.0%

仕事の種類を聞いたところ、「非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・日雇等(契約職員・派遣職員を含む))」の割合が 66.9%で最も高く、また、「正規の職員・従業員」が 21.0%となっている。 (表IV-5-1 本文 188p)

表Ⅳ-5-1 仕事の種類〔複数回答〕-年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

		総数	正規の職員・従業員	社等の役員	的職員、派遣職員を含む))ト・アルバイト・日雇等(契非正規の職員・従業員(パー	自営業	家業の手伝い	内職	その他
総数		100.0		1.3	<u>66.</u> 9	4.5	2.5	3.2	2.5
	29歳以下	100.0	23.8	_	76.2	-	-	-	_
年	30~39歳	100.0	28.9)	-	62.2	-	6.7	4.4	2.2
齢 階	40~49歳	100.0		4.0	72.0	6.0	-	-	4.0
級 別	50~59歳	100.0	23.3	-	56.7	6.7	3.3	6.7	3.3
	60歳以上	100.0		-	72.7	18.2	-	9.1	-
程手	2 級	100.0	10.3	2.6	69.2	7.7	2.6	5.1	5.1
度帳別の	3 級	-	25.0	0.9	65.5	3 . 4	2.6	2.6	1.7

注) 手帳の程度別のうち、1級は、該当者がいないため、省略した。

(3) 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

- 性別、年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・日雇等(契約職員、派遣職員を含む))である139人が対象

仕事をしていく上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」の割合が 71.2%、「困ることは特にない」が 23.7%となっている。

性別でみると、男性では「人間関係(職場内でのいじめなど)」の割合が27.7%、女性では「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」が28.6%となっている。

年齢階級別にみると、29 歳以下では「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」の割合が 42.9%、50 歳以上では「人間関係 (職場内でのいじめなど)」が 43.8%となっている。 (表 \mathbb{N} -5-4 本文 194p)

表Ⅳ-5-4 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

ー性別、年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

		総	困												困	無
		数	ることがある	仕事の内容	いじめなど) 人間関係(職場内での	内容が伝わらない相手に対して、言いたい	ことが分からない相手の言っている	バリアフリー 化が不十分職場の(物理的な)	勤務時間・日数	通勤距離・時間	通勤時の混雑	との両立と期的な通院や健康管理	がない。	その他	困ることは特にない	無回答
総数		100.0 (139)	<u>71.2</u>	17.3	26.6	20.1	12.2	1.4	13.7	12.2	11.5	13.7	10.8	7.9	<u>23.7</u>	5.0
性	男	100.0 (83)	69.9	13.3	<u>27.7</u>	14.5	12.0	2.4	10.8	15.7	14.5	13.3	9.6	7.2	25.3	4.8
別	女	100.0 (56)	73.2	23.2	25.0	<u>28.6</u>	12.5	-	17.9	7.1	7.1	14.3	12.5	8.9	21.4	5.4
	29歳以下	100.0 (21)	81.0	28.6	23.8	42.9	28.6	-	19.0	9.5	9.5	9.5	-	-	19.0	_
年齢	30~39歳	100.0 (40)	72.5	17.5	25.0	27.5	10.0	2.5	17.5	10.0	17.5	17.5	5.0	5.0	20.0	7.5
階 級 別	40~49歳	100.0 (46)	60.9	13.0	17.4	10.9	8.7	2.2	10.9	13.0	4.3	10.9	21.7	10.9	32.6	6.5
ויל	50歳以上	100.0 (32)	78.1	15.6	<u>43.8</u>	9.4	9.4	-	9.4	15.6	15.6	15.6	9.4	12.5	18.8	3.1
程手	2級	100.0 (32)	71.9	9.4	15.6	15.6	12.5	-	18.8	9.4	12.5	21.9	18.8	3.1	25.0	3.1
度帳別の	3級	100.0 (105)	71.4	19.0	30.5	21.0	11.4	1.9	12.4	13.3	11.4	11.4	8.6	9.5	22.9	5.7

注) 手帳の程度別のうち、1級は該当者がいないため、省略した。

2 経済基盤

(1) 収入の種類〔3つまでの複数回答〕

-年齢階級、年間収入額(生活保護費を除く)、診断名〔複数回答〕別

しゅうにゅう しゅるい ねんきん おんきゅう わりあい ちゃうりょう ねりあい 人の種類は「年金・恩 給」の割合が 47.3%、「賃金・給 料」が 31.5%

平成 29 年中の収入の種類を聞いたところ、「年金・恩給」の割合が 47.3%、「賃金・給料」が 31.5%となっている。

平成 25 年度調査と比べて、「賃金・給料」の割合が 11.9 ポイント増加している。 (表IV-6-1本文 200p)

表IV-6-1 収入の種類〔3つまでの複数回答〕

- 年齢階級、年間収入額(生活保護費を除く)、診断名〔複数回答〕別

		総数	賃金・給料	事業所得	内職収入	家賃・地代	利子・配当	仕送り・小遣い	養育費・慰謝料	年金・恩給	生活保護費	昨 书	雇用保険	保険金・補償金	作業所等の工賃	その他の収入	収入はなかった	無回答
総数		100.0 (499)	31.5	1.0	0.6	2.8	1.2	8.6	0.6	<u>47.3</u>	25.1	3.6	1.8	0.2	7.0	4.0	7.8	1.0
	29歳以下	100.0	50.0	-	-	-	2.5	27.5	-	30.0	5.0	2.5	-	-	2.5	7.5	10.0	2.5
	30~39歳	(40) 100.0 (96)	43.8	1.0	1.0	1.0	2.1	11.5	1.0	35.4	17.7	3.1	2.1	-	10.4	2.1	10.4	-
年	40~49歳	100.0 (136)	36.8	2.2	-	2.9	0.7	9.6	0.7	41.2	22.1	4.4	5.1	-	8.1	2.2	8.1	0.7
· 齢階級	50~59歳	100.0	26.8	-	1.6	2.4	1.6	6.5	0.8	43.9	37.4	4.1	-	0.8	7.3	5.7	8.1	-
別	60~69歳	100.0 (67)	16.4	-	-	4.5	-	-	-	74.6	28.4	3.0	-	-	4.5	7.5	4.5	3.0
	70歳以上	100.0 (37)	2.7	2.7	-	8.1	-	-	-	81.1	29.7	2.7	-	-	2.7	-	2.7	2.7
	(再掲)65歳以上	100.0 (75)	4.0	1.3	-	6.7	_	_	_	82.7	28.0	4.0	-	_	2.7	4.0	2.7	2.7
	収入なし	100.0 (90)	-	-	-	-	-	-	-	-	58.9	-	-	-	-	-	40.0	1.1
年 間	50万円未満	100.0	23.3	1.4	1.4	-	-	26.0	-	38.4	27.4	4.1	-	-	21.9	6.8	-	-
収入	50~100万円未満	100.0	24.6	-	-	2.2	0.7	6.7	1.5	75.4	26.1	6.0	1.5	-	7.5	3.7	-	-
額	100~150万円未満	100.0	45.3	1.3	-	4.0	2.7	12.0	-	66.7	12.0	2.7	6.7	-	8.0	5.3	-	-
活促	150~200万円未満	100.0	63.0	3.7	-	7.4	7.4	11.1	-	55.6	7.4	11.1	-	-	3.7	-	-	-
生活保護費	200~250万円未満	100.0	76.0	-	-	8.0	-	4.0	4.0	40.0	-	-	8.0	-	4.0	4.0	-	-
を 除	250~300万円未満	100.0	71.4	-	-	14.3	-	-	-	35.7	-	-	-	-	-	-	-	-
く) 別	300~400万円未満	100.0	80.0	-	-	-	-	-	-	40.0	-	-	-	-	-	-	-	-
223	400万円以上	100.0 (19)	73.7	5.3	5.3	10.5	5.3	5.3	-	31.6	-	5.3	-	5.3	-	21.1	-	-
	アルコール・薬物依存症	100.0	18.2	-	-	-	-	9.1	-	36.4	45.5	-	-	-	-	-	18.2	-
	統合失調症	100.0 (189)	19.6	-	-	3.7	0.5	8.5	0.5	59.8	28.0	5.3	2.1	-	11.6	2.6	5.3	1.6
診 断	そううつ病、うつ病	100.0 (217)	32.3	1.8	0.9	2.3	1.8	8.3	0.5	43.3	25.3	0.5	2.3	0.5	4.1	4.6	9.2	0.5
名	パーソナリティ障害	100.0	20.0	-	-	-	10.0	20.0	-	30.0	20.0	-	-	-	-	20.0	10.0	-
〔複 数 回	てんかん	100.0	25.0	-	3.1	3.1	-	6.3	-	46.9	18.8	12.5	-	-	6.3	3.1	15.6	3.1
答	発達障害 (自閉症、学習障害など)	100.0	58.8	-	-	1.2	3.5	14.1	2.4	32.9	12.9	2.4	2.4	-	5.9	5.9	5.9	-
別	高次脳機能障害	100.0	42.1	5.3	-	-	-	10.5	-	63.2	5.3	21.1	-	-	5.3	-	-	-
	その他	100.0	32.9	-	-	-	1.4	5.7	-	40.0	17.1	1.4	1.4	-	2.9	5.7	15.7	1.4
平成	25年度	100.0 (537)	19.6	0.7	0.4	0.7	0.6	10.1	0.2	46.6	32.6	6.1	0.6	0.6	7.6	2.4	9.5	1.3

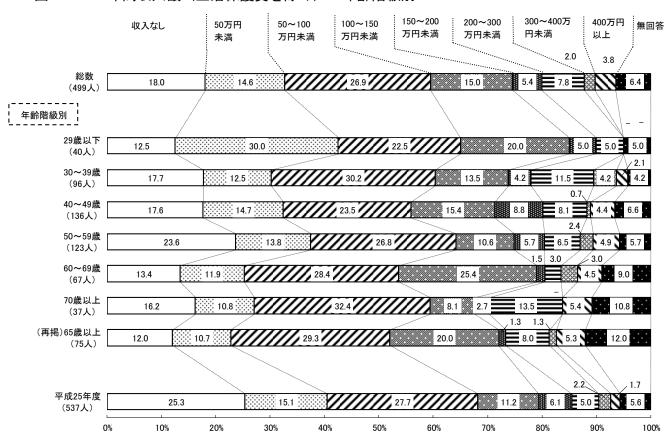
(2)年間収入額(生活保護費を除く)-年齢階級別

^{ቴんしゅう} 年 収は「50~100万円未満」の割合が 26.9%

平成 29 年中の収入額を聞いたところ、「50~100 万円未満」の割合が 26.9%、「収入なし」が 18.0%となっている。

平成 25 年度調査と比べて、「収入なし」の割合は、7.3 ポイント減少している。 (図IV-6-4 本文 204p)

図Ⅳ-6-4 年間収入額(生活保護費を除く)-年齢階級別



3 社会参加等

社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

-年齢階級、診断名〔複数回答〕別

社会参加をする上で妨げになっていることがあるか聞いたところ、「経済的な理由」の割合が35.7%、「まわりの人の障害者に対する理解不足」が21.8%となっている。一方で、「特にない」の割合は26.3%となっている。

年齢階級別にみると、29歳以下では「まわりの人の障害者に対する理解不足」の割合が35.0%、「一緒に行く仲間がいない」が32.5%となっている。

診断名別にみると、発達障害(自閉症、学習障害など)では「まわりの人の障害者に対する理解不足」の割合が 34.1%となっている。 (表 \mathbb{N} -7-4 本文 209p)

表Ⅳ-7-4 社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

一年齡階級、診断名〔複数回答〕別

		総数	経済的な理由	介助者がいない	情報がない	理解不足に対する	拒否される障害を理由に	いない適切な相談相手が	いない一緒に行く仲間が	配慮されない ※ れつルプマークを	その他	特にない	— 無 回 答
総数	数	100.0 (499)	<u>35.7</u>	3.8	17.0	21.8	2.8	16.0	18.8	3.4	13.4	26.3	3.2
	29歳以下	100.0 (40)	30.0	2.5	15.0	<u>35.0</u>	7.5	12.5	<u>32.5</u>	5.0	12.5	15.0	5.0
	30~39歳	100.0 (96)	41.7	5.2	18.8	24.0	4.2	17.7	22.9	5.2	11.5	20.8	-
年	40~49歳	100.0 (136)	43.4	-	15.4	26.5	2.2	16.2	16.2	2.9	11.8	25.7	1.5
齢 階 級	50~59歳	100.0 (123)	36.6	4.1	22.0	19.5	0.8	19.5	19.5	3.3	10.6	27.6	4.1
別	60~69歳	100.0 (67)	19.4	6.0	13.4	17.9	4.5	14.9	11.9	3.0	16.4	35.8	6.0
	70歳以上	100.0 (37)	24.3	10.8	10.8	-	-	5.4	13.5	-	29.7	32.4	8.1
	(再掲)65歳以上	100.0 (75)	21.3	8.0	13.3	10.7	4.0	10.7	14.7	1.3	21.3	36.0	5.3
	アルコール・薬物依存症	100.0	36.4	-	27.3	9.1	_	27.3	9.1	-	18.2	18.2	9.1
	統合失調症	100.0 (189)	32.3	1.6	19.0	20.6	3.7	16.4	20.1	2.6	10.6	27.0	3.7
診断	そううつ病、うつ病	100.0 (217)	41.9	4.6	17.5	21.2	1.4	17.1	18.4	4.1	15.7	22.1	3.7
名 複	パーソナリティ障害	100.0 (10)	40.0	-	20.0	10.0	-	30.0	20.0	-	10.0	20.0	10.0
[複数回	てんかん	100.0 (32)	37.5	6.3	18.8	31.3	15.6	25.0	18.8	6.3	12.5	21.9	3.1
答」別	発達障害(自閉症、 学習障害など)	100.0	37.6	1.2	18.8	<u>34.1</u>	-	16.5	24.7	4.7	15.3	18.8	1.2
73.3	高次脳機能障害	100.0	10.5	10.5	15.8	31.6	5.3	15.8	10.5	10.5	26.3	21.1	5.3
	その他	100.0	38.6	2.9	21.4	22.9	4.3	21.4	20.0	8.6	7.1	25.7	5.7
平原	戊 25年度	100.0 (537)	31.8	5.0	15.3	21.4	1.7	13.8	18.6		17.3	27.6	3.2

注)※は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。

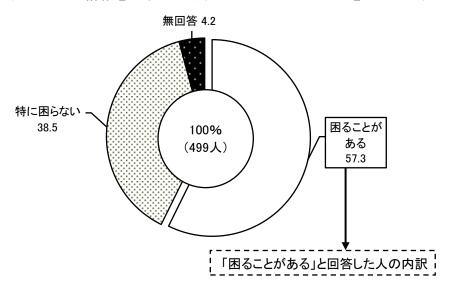
4 情報の入手やコミュニケーションの手段 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること〔2つまでの複数回答〕

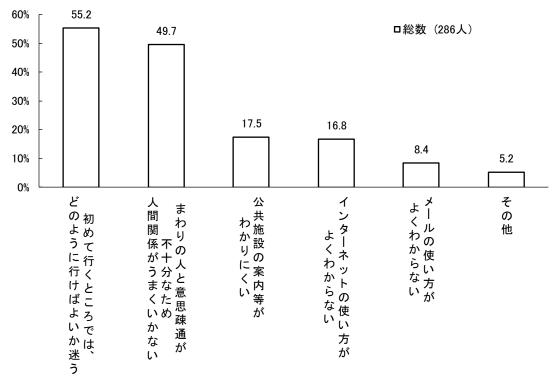
たまうほう にゅうしゅ 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることは、「初めて行くところでは、 どのように行けばよいか迷う」の割合が 55.2%

情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」と答えた割合が57.3%となっている。

困ることの内容では、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」の割合が 55.2%、「まわりの人と意思疎通が不十分なため人間関係がうまくいかない」が 49.7%となっている。 (図 IV-8-2 本文 212p)

図Ⅳ-8-2 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること〔2つまでの複数回答〕





5 その他の福祉サービス等 今後利用したい福祉サービス等〔複数回答〕

- 年齢階級、診断名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

うぺぇ りょう 今後利用したい福祉サービス等は、「相談サービス (地域活動支援センターなど)」の割合が 22. 2%

今後利用したい福祉サービス等は何か聞いたところ、「相談サービス」の割合が 22.2%、「就労支援サービス」が 21.0%、「ホームヘルプサービス」が 15.6%となっている。

年齢階級別にみると、「就労支援サービス」の割合は、29歳以下では 40.0% となっている。 (表 \mathbb{N} -10-3本文 225p)

表Ⅳ-10-3 今後利用したい福祉サービス等〔複数回答〕

一年齢階級、診断名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

						, .				· ·						
		総 数	サービスホームヘルプ	事業所など) (就労移行支援通所サービス	サービスショートステイ	センター など)(地域活動支援相談サー ビス	など) 生活支援センター (障害者就業・就労支援サービス	支援の充実 ※外出にかかわる	情報提供の充実	訪問看護	デイケア	(オンブズマン)苦情処理	自助グループ 活動	その他	特にない	無回答
総数		100.0 (499)	<u>15.6</u>	9.0	4.0	22.2	<u>21.0</u>	9.4	15.2	9.2	7.4	2.8	3.2	3.8	35.7	2.8
	29歳以下	100.0 (40)	7.5	10.0	5.0	20.0	<u>40.0</u>	7.5	15.0	-	10.0	-	-	2.5	35.0	2.5
	30~39歳	100.0 (96)	11.5	14.6	3.1	25.0	30.2	8.3	16.7	3.1	7.3	2.1	4.2	5.2	31.3	1.0
年	40~49歳	100.0 (136)	19.9	8.1	0.7	23.5	23.5	10.3	14.7	9.6	5.1	2.2	5.9	4.4	37.5	1.5
齢 階 級	50~59歳	100.0 (123)	9.8	5.7	2.4	24.4	20.3	6.5	20.3	13.0	5.7	5.7	3.3	3.3	37.4	3.3
別	60~69歳	100.0 (67)	20.9	6.0	10.4	19.4	4.5	11.9	9.0	16.4	11.9	1.5	-	4.5	34.3	6.0
	70歳以上	100.0 (37)	29.7	13.5	10.8	10.8	-	16.2	8.1	8.1	10.8	2.7	-	-	37.8	5.4
	(再掲)65歳以上	100.0 (75)	26.7	10.7	9.3	13.3	4.0	13.3	8.0	14.7	13.3	2.7	-	4.0	32.0	6.7
	アルコール・薬物依存症	100.0 (11)	_	_	9.1	36.4	18.2	9.1	18.2	_	18.2	-	9.1	-	27.3	_
診	統合失調症	100.0 (189)	21.7	12.2	3.7	24.9	16.4	9.0	15.3	14.8	11.1	2.6	3.7	2.6	28.0	3.7
断名	そううつ病、うつ病	100.0 (217)	13.4	6.0	3.7	20.7	21.7	9.7	16.1	8.3	5.5	2.8	3.7	4.6	38.2	2.3
ī 復	パーソナリティ障害	100.0	20.0	-	-	30.0	30.0	-	20.0	-	20.0	10.0	10.0	10.0	20.0	-
数 回	てんかん	100.0 (32)	18.8	3.1	6.3	25.0	18.8	18.8	21.9	6.3	-	-	-	-	40.6	6.3
答」	発達障害(自閉症、 学習障害など)	100.0 (85)	11.8	11.8	3.5	25.9	32.9	9.4	24.7	3.5	7.1	4.7	4.7	5.9	29.4	1.2
別	高次脳機能障害	100.0 (19)	15.8	21.1	21.1	15.8	21.1	-	15.8	5.3	21.1	-	-	5.3	36.8	-
	その他	100.0 (70)	11.4	8.6	4.3	17.1	20.0	5.7	15.7	7.1	1.4	4.3	2.9	7.1	44.3	2.9
主	自分の家	100.0 (297)	18.2	7.7	4.4	23.2	17.5	12.1	15.2	10.4	7.7	3.0	1.7	4.4	35.7	2.7
に 過 _平	職場(福祉的就労の 施設を除く)	100.0	4.5	5.7	1.1	25.0	29.5	4.5	17.0	3.4	2.3	2.3	5.7	3.4	47.7	-
過ごしたとこ平日の日中	職場(福祉的就労の 施設)	100.0	17.9	20.5	2.6	20.5	38.5	7.7	17.9	17.9	2.6	5.1	5.1	2.6	23.1	-
と日	通所施設(生活介護・ 自立訓練事業所など)	100.0	26.7	6.7	6.7	6.7	20.0	-	20.0	20.0	6.7	-	13.3	13.3	26.7	-
ろ 別	デイケア等	100.0	28.6	14.3	21.4	7.1	7.1	-	14.3	-	57.1	-	-	-	14.3	-
平成	25年度	100.0 (537)	14.7	5.8	6.3	22.0	20.5		17.9	8.4	10.8	4.7	4.1	4.1	33.9	5.6

注1)「平日の日中主に過ごしたところ別」のうち、「学校」、「地域活動支援センター」、「入所施設」及び「その他」は、母数が少数のため、省略した。

^{2) ※}は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。

○難病患者 899 人(回答者)の状況

※報告書の「第5章 難病患者の状況 (231p~307p)」からの主な結果の抜粋

※難病は、対象疾病 339 疾病(指定難病 331 疾病 + 都単独医療費助成対象疾病 8 疾病)を、下記表のとおり「神経・筋疾患」、「代謝系疾患」、「皮膚・結合組織疾患」、「免疫系疾患」、「循環器系疾患」、「血液系疾患」、「腎・泌尿器系疾患」、「骨・関節系疾患」、「内分泌系疾患」、「呼吸器系疾患」、「視覚系疾患」、「聴覚・平衡機能系疾患」、「消化器系疾患」、「染色体または遺伝子に変化を伴う症候群」及び「耳鼻科系疾患」の十五疾患群に分類している。

※平成25年度調査において、難病は対象疾病80疾病を「神経系」、「膠原系」及び「その他」に三分類していた。その後、平成27年1月1日の「難病の患者に対する医療等に関する法律」(平成26年法律第50号)施行以降、順次指定難病が拡充されており、平成25年度調査と本調査では対象としている難病患者が異なるため、平成25年度調査結果との比較は参考として取り扱う。(本文231p)

注) 平成 25 年度調査における分類は、「平成 25 年度の分類」の欄に記載しており、「-」となっている疾病は、平成 25 年度 調査では対象でなかった疾病である。また、疾病名は、平成 25 年度調査から一部変更となっている。

<i>-</i>		平成25年度
疾病 番号	神経・筋疾患 (84疾病)	中成25年度
1	球脊髄性筋萎縮症	神経系
2	筋萎縮性側索硬化症	神経系
	脊髄性筋萎縮症	神経系
	原発性側索硬化症	-
_	進行性核上性麻痺	神経系
	パーキンソン病	神経系
	大脳皮質基底核変性症	神経系
	ハンチントン病	神経系
	神経有棘赤血球症	-
	シャルコー・マリー・トゥース病	神経系
	重症筋無力症	神経系
	先天性筋無力症候群	- 1+4±xx
	多発性硬化症/視神経脊髄炎	神経系
	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	神経系
	封入体筋炎	17/12/1
	クロウ・深瀬症候群	_
	多系統萎縮症	神経系
	シボル・安州が上 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	神経系
	もやもや病	神経系
	プリオン病	神経系
_	亜急性硬化性全脳炎	神経系
		押柱术
	進行性多巣性白質脳症 HTLV-1関連脊髄症	_
	TILV	
	ウルリッヒ病	_
	ラルウッと病 遠位型ミオパチー	_
_	遠位至ミオ ハチー ベスレムミオ パチー	_
	自己貪食空胞性ミオパチー	_
		_
	シュワルツ・ヤンペル症候群	-
	先天性ミオパチー	神経系
	マリネスコ・シェーグレン症候群	-
	筋ジストロフィー	神経系
	非ジストロフィー性ミオトニー症候群 遺伝性周期性四肢麻痺	神経系
		_
	アトピー性脊髄炎 脊髄空洞症	膠原系
	脊髄髄膜瘤 マスポックス 点に 200	_
_	アイザックス症候群	_
	遺伝性ジストニア	
	神経フェリチン症	_
	脳表へモジデリン沈着症 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	-
		_
	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	
	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	_
	ペリー症候群	_
	前頭側頭葉変性症	-
	ビッカースタッフ脳幹脳炎	_
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	-

疾病 番号	神経・筋疾患 (84疾病)(続)	平成25年度 の分類
130		-
131	アレキサンダー病	-
132	先天性核上性球麻痺 	-
133	メビウス症候群	-
135	アイカルディ症候群	-
136	片側巨脳症	-
137	限局性皮質異形成	-
138	神経細胞移動異常症	-
139	先天性大脳白質形成不全症	-
140	ドラベ症候群	-
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	-
142	ミオクロニー欠神てんかん	-
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	-
144	レノックス・ガストー症候群	-
145	ウエスト症候群	_
146	大田原症候群	-
147	早期ミオクロニー脳症	-
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	_
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	-
150	環状20番染色体症候群	-
151	ラスムッセン脳炎	-
152	PCDH19関連症候群	-
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	-
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	-
155	ランドウ・クレフナー症候群	-
156	レット症候群	-
157	スタージ・ウェーバー症候群	神経系
158	結節性硬化症	神経系
159	色素性乾皮症	-
177	ジュベール症候群関連疾患(有馬症候群から名称変更)	-
201	アンジェルマン症候群	-
	カナバン病	-
	進行性白質脳症	-
309	進行性ミオクローヌスてんかん	-
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	-
都83	母斑症(指定難病を除く。)	神経系

疾病 番号	代謝系疾患 (43疾病)	平成25年度 の分類
19	ライソゾーム病	神経系
20	副腎白質ジストロフィー	神経系
21	ミトコンドリア病	神経系
28	全身性アミロイドーシス	神経系
79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	その他
169	メンケス病	-
171	ウィルソン病	その他
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	-
240	フェニルケトン尿症	-

疾病 番号	代謝系疾患 (43疾病) (続)	平成25年度 の分類
241	高チロシン血症1型	-
242	高チロシン血症2型	-
243	高チロシン血症3型	-
244	メープルシロップ尿症	-
245	プロピオン酸血症	-
246	メチルマロン酸血症	-
247	イソ吉草酸血症	-
248	グルコーストランスポーター1欠損症	-
249	グルタル酸血症1型	-
250	グルタル酸血症2型	-
251	尿素サイクル異常症	-
252	リジン尿性蛋白不耐症	-
253	先天性葉酸吸収不全	-
254	ポルフィリン症	-
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	-
256	筋型糖原病	-
257	肝型糖原病	-
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	-
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	-
260	シトステロール血症	-
261	タンジール病	-
262	原発性高カイロミクロン血症	-
263	脳腱黄色腫症	-
264	無β リポタンパク血症	-
265	脂肪萎縮症	-
316	カルニチン回路異常症	-
317	三頭酵素欠損症	-
318	シトリン欠損症	-
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	_
321	非ケトーシス型高グリシン血症	-
322	βケトチオラーゼ欠損症	-
323	芳香族レーアミノ酸脱炭酸酵素欠損症	-
324	メチルグルタコン酸尿症	-
326	大理石骨病	-

疾病 番号	皮膚・結合組織疾患 (15疾病)	平成25年度 の分類
34	神経線維腫症	神経系
35	天疱瘡	その他
36	表皮水疱症	その他
37	膿疱性乾癬(汎発型)	その他
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	膠原系
39	中毒性表皮壊死症	膠原系
51	全身性強皮症	膠原系
160	先天性魚鱗癬	-
161	家族性良性慢性天疱瘡	-
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	-
163	特発性後天性全身性無汗症	-
166	弾性線維性仮性黄色腫	-
167	マルファン症候群	-
168	エーラス・ダンロス症候群	-
170	オクシピタル・ホーン症候群	_

疾病 番号	免疫系疾患 (29疾病)	平成25年度 の分類
40	高安動脈炎	膠原系
41	巨細胞性動脈炎	_
42	結節性多発動脈炎	膠原系
43	顕微鏡的多発血管炎	膠原系
44	多発血管炎性肉芽腫症	膠原系
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	その他
46	悪性関節リウマチ	膠原系
47	バージャー病	その他
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	_
49	全身性エリテマトーデス	膠原系
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	膠原系
52	混合性結合組織病	膠原系
53	シェーグレン症候群	膠原系
54	成人スチル病	膠原系
55	再発性多発軟骨炎	_
56	ベーチェット病	膠原系
106	クリオピリン関連周期熱症候群	_

疾病 番号	免疫系疾患 (29疾病) (続)	平成25年度 の分類
107	若年性特発性関節炎(全身型若年性特発性関節炎から名称変更)	-
108	TNF受容体関連周期性症候群	_
110	ブラウ症候群	-
266	家族性地中海熱	-
267	高IgD症候群	-
268	中條·西村症候群	-
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	_
288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	-
300	IgG4関連疾患	-
306	好酸球性副鼻腔炎	-
325	遺伝性自己炎症疾患	_
都88	古典的特発性好酸球増多症候群	膠原系

疾病 番号	循環器系疾患 (23疾病)	平成25年度 の分類
57	特発性拡張型心筋症	その他
58	肥大型心筋症	その他
59	拘束型心筋症	その他
207	総動脈幹遺残症	-
208	修正大血管転位症	ı
209	完全大血管転位症	-
210	単心室症	-
211	左心低形成症候群	-
212	三尖弁閉鎖症	ı
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	ı
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	-
215	ファロー四徴症	-
216	両大血管右室起始症	-
217	エプスタイン病	ı
279	巨大静脈奇形(頚部口腔咽頭びまん性病変)	-
280	巨大動静脈奇形(頚部顔面又は四肢病変)	-
281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	神経系
311	先天性三尖弁狭窄症	-
312	先天性僧帽弁狭窄症	ı
313	先天性肺静脈狭窄症	ı
314	左肺動脈右肺動脈起始症	ı
都77	悪性高血圧	その他
都95	遺伝性QT延長症候群	その他

疾病 番号	血液系疾患 (14疾病)	平成25年度 の分類
60	再生不良性貧血	その他
61	自己免疫性溶血性貧血	-
62	発作性夜間へモグロビン尿症	-
63	特発性血小板減少性紫斑病	その他
64	血栓性血小板減少性紫斑病	-
65	原発性免疫不全症候群	その他
282	先天性赤血球形成異常性貧血	-
283	後天性赤芽球癆	-
284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	-
285	ファンコニ貧血	-
286	遺伝性鉄芽球性貧血	-
327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	-
331	特発性多中心性キャッスルマン病	-
都80	原発性骨髄線維症	その他

疾病 番号	腎・泌尿器系疾患 (13疾病)	平成25年度 の分類
66	IgA腎症	-
67	多発性囊胞腎	その他
109	非典型溶血性尿毒症症候群	-
218	アルポート症候群	-
219	ギャロウェイ・モワト症候群	-
220	急速進行性糸球体腎炎	-
221	抗糸球体基底膜腎炎	-
222	一次性ネフローゼ症候群	その他
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	その他
224	紫斑病性腎炎	-
225	先天性腎性尿崩症	_
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	-
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	-

疾病 番号	骨-関節系疾患 (13疾病)	平成25年度 の分類
68	黄色靱帯骨化症	その他
69	後縦靱帯骨化症	神経系
70	広範脊柱管狭窄症	神経系
71	特発性大腿骨頭壊死症	膠原系
172	低ホスファターゼ症	-
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	-
270	慢性再発性多発性骨髄炎	-
271	強直性脊椎炎	膠原系
272	進行性骨化性線維異形成症	-
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	-
274	骨形成不全症	-
275	タナトフォリック骨異形成症	-
276	軟骨無形成症	-

疾病 番号	内分泌系疾患 (16疾病)	平成25年度 の分類
72	下垂体性ADH分泌異常症	その他
73	下垂体性TSH分泌亢進症	その他
74	下垂体性PRL分泌亢進症	その他
75	クッシング病	その他
76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	その他
77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	その他
78	下垂体前葉機能低下症	その他
80	甲状腺ホルモン不応症	-
81	先天性副腎皮質酵素欠損症	-
82	先天性副腎低形成症	-
83	アジソン病	-
233	ウォルフラム症候群	-
235	副甲状腺機能低下症	-
236	偽性副甲状腺機能低下症	-
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	-
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	-

疾病 番号	呼吸器系疾患 (15疾病)	平成25年度 の分類
84	サルコイドーシス	膠原系
85	特発性間質性肺炎	その他
86	肺動脈性肺高血圧症	その他
87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	その他
88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	その他
89	リンパ脈管筋腫症	その他
228	閉塞性細気管支炎	-
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	-
230	肺胞低換気症候群	-
231	α 1ーアンチトリプシン欠乏症	-
277	リンパ管腫症/ゴーハム病	-
278	巨大リンパ管奇形(頚部顔面病変)	-
294	先天性横隔膜ヘルニア	-
330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症(先天性気管狭窄症から名称変更)	-
都91	びまん性汎細気管支炎	その他

疾病 番号	視覚系疾患 (9疾病)	平成25年度 の分類
90	網膜色素変性症	その他
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	_
164	眼皮膚白皮症	-
301	黄斑ジストロフィー	-
302	レーベル遺伝性視神経症	-
303	アッシャー症候群	-
328	前眼部形成異常	-
329	無虹彩症	-
都97	網膜脈絡膜萎縮症	その他

疾病 番号	聴覚・平衡機能系疾患 (1疾病)	平成25年度 の分類
190	鰓耳腎症候群	-

疾病 番号	消化器系疾患 (21疾病)	平成25年度 の分類
91	バッド・キアリ症候群	その他
92	特発性門脈圧亢進症	その他
93	原発性胆汁性胆管炎	その他
94	原発性硬化性胆管炎	その他
95	自己免疫性肝炎	その他
96	クローン病	その他
97	潰瘍性大腸炎	その他
98	好酸球性消化管疾患	-
99	慢性特発性偽性腸閉塞症	-
100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	-
101	腸管神経節細胞僅少症	-
289	クロンカイト・カナダ症候群	-
290	非特異性多発性小腸潰瘍症	-
291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	-
292	総排泄腔外反症	-
293	総排泄腔遺残	-
295	乳幼児肝巨大血管腫	-
296	胆道閉鎖症	-
298	遺伝性膵炎	-
299	嚢胞性線維症	-
都866	肝内結石症	その他

疾病	M	平成25年度
番号	染色体または遺伝子に変化を伴う症候群 (41疾病)	の分類
102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	-
103	CFC症候群	-
104	コステロ症候群	-
105	チャージ症候群	-
165	肥厚性皮膚骨膜症	-
173	VATER症候群	-
174	那須・ハコラ病	-
175	ウィーバー症候群	-
176	コフィン・ローリー症候群	-
178	モワット・ウィルソン症候群	-
179	ウィリアムズ症候群	-
180	ATR一X症候群	-
181	クルーゾン症候群	-
	アペール症候群	-
183	ファイファー症候群	-
184	アントレー・ビクスラー症候群	-
185	コフィン・シリス症候群	-
	ロスムンド・トムソン症候群	-
187	歌舞伎症候群	-
	多脾症候群	-
	無脾症候群	-
191	ウェルナー症候群	-
192	コケイン症候群	-
	プラダー・ウィリ症候群	-
	ソトス症候群	-
	ヌーナン症候群	-
	ヤング・シンプソン症候群	-
	1p36欠失症候群	_
	4p欠失症候群	-
	5p欠失症候群	-
	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	-
	スミス・マギニス症候群	-
	22q11.2欠失症候群	-
	エマヌエル症候群	_
	脆弱X症候群関連疾患	_
	脆弱X症候群	_
	オスラー病	_
	カーニー複合	_
	エプスタイン症候群	_
	アラジール症候群	_
	先天異常症候群	_

疾病 番号	耳鼻科系疾患 (2疾病)	平成25年度 の分類
304	若年発症型両側性感音難聴	-
305	遅発性内リンパ水腫	-

1 就労の状況

(1) 収入を伴う仕事の有無(調査基準日現在)-疾患群、年齢階級別

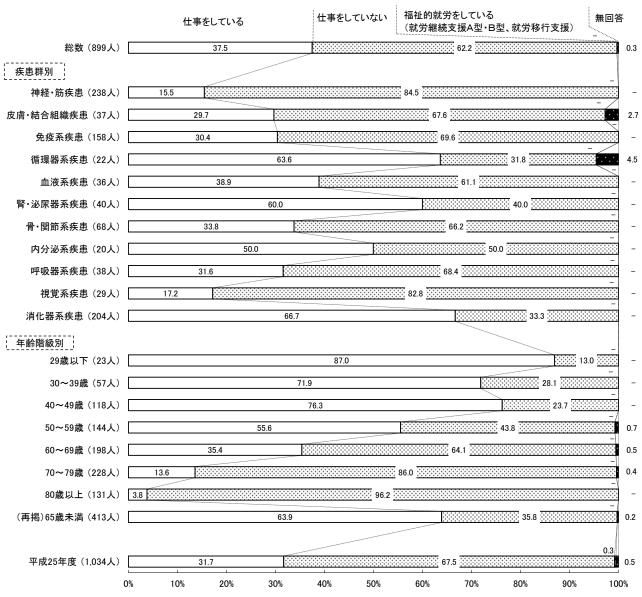
「仕事をしている」人の割合は 37.5%。65歳未満では 63.9%

収入を伴う仕事をしているか聞いたところ、「仕事をしている」の割合が37.5%、「仕事をしていない」が62.2%、「福祉的就労をしている(就労継続支援A型・B型、就労移行支援)」は該当者がいなかった。

年齢階級別にみると、「仕事をしている」の割合は、65歳未満では63.9%となっている。

疾患群別にみると、「循環器系疾患」、「腎・泌尿器系疾患」及び「消化器系疾患」では「仕事をしている」の割合がいずれも 6 割以上となっている (63.6%,60.0%,66.7%)。 (図V-5-1 本文 262p)

図 V-5-1 収入を伴う仕事の有無(調査基準日現在)-疾患群、年齢階級別



注)疾患群別のうち、「聴覚・平衡機能系疾患」及び「耳鼻科系疾患」は該当者がいないため、「代謝系疾患」及び「染 色体または遺伝子に変化を伴う症候群」は母数が少数のため、省略した。

(2) 仕事の種類〔複数回答〕 - 疾患群、年齢階級別

※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した337人が対象

「正規の職員・従業員」の割合が43.9%、「非正規の職員・従業員」が35.3%

仕事の種類を聞いたところ、「正規の職員・従業員」の割合が43.9%、「非正規の職員・従業員 (パート・アルバイト・日雇等(契約職員、派遣職員を含む))」が35.3%となっている。

年齢階級別にみると、40 代では「正規の職員・従業員」の割合が 61.1%となっている。 (表V-5-1 本文 263p)

表 V-5-1 仕事の種類〔複数回答〕 -疾患群、年齢階級別

		総数	正規の職員・従業員	会社等の役員	職員を含む))日雇等(契約職員、派遣日雇等(契約職員、派遣非正規の職員・従業員	自営業	家業の手伝い	内職	その他	無回答
総数	女	100.0 (337)	43.9	5.6	35.3	11.0	2.4	0.3	1.2	1.8
	神経・筋疾患	100.0	32.4	10.8	35.1	13.5	2.7	_	5.4	2.7
	皮膚·結合組織疾患	100.0	18.2	-	54.5	27.3	-	-	-	-
	免疫系疾患	100.0 (48)	31.3	2.1	41.7	16.7	6.3	2.1	-	2.1
	循環器系疾患	100.0 (14)	50.0	-	35.7	-	14.3	-	-	-
疾 患 群	血液系疾患	100.0 (14)	50.0	21.4	21.4	7.1	-	-	-	7.1
群 別	腎•泌尿器系疾患	100.0 (24)	62.5	4.2	25.0	8.3	-	-	-	-
	骨·関節系疾患	100.0 (23)	43.5	8.7	21.7	17.4	4.3	-	-	4.3
	内分泌系疾患	100.0 (10)	50.0	-	40.0	10.0	-	-	-	-
	呼吸器系疾患	100.0 (12)	25.0	8.3	50.0	8.3	-	-	-	8.3
	消化器系疾患	100.0 (136)	49.3	4.4	36.0	8.8	0.7	-	1.5	0.7
	29歳以下	100.0 (20)	55.0	-	30.0	5.0	-	-	5.0	5.0
	30~39歳	100.0 (41)	58.5	7.3	26.8	2.4	-	2.4	-	2.4
年齢	40~49歳	100.0 (90)	<u>61.1</u>	2.2	32.2	5.6	-	-	1.1	-
階級	50~59歳	100.0 (80)	55.0	2.5	27.5	8.8	5.0	-	-	2.5
別	60~69歳	100.0 (70)	17.1	11.4	54.3	11.4	4.3	-	2.9	1.4
	70歳以上	100.0 (36)	5.6	11.1	36.1	41.7	2.8	_	_	2.8
	(再掲)65歳以上	100.0 (73)	6.8	13.7	47.9	26.0	4.1	_	1.4	1.4
平成	25年度	100.0 (328)	36.6	8.2	35.1	16.2	2.7	0.9	2.4	0.3

注)疾患群別のうち、「聴覚・平衡機能系疾患」、「染色体または遺伝子に変化を伴う症候群」及び「耳鼻科系疾患」は 該当者がいないため、「代謝系疾患」及び「視覚系疾患」は母数が少数のため、省略した。

(3) 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

- 性別、疾患群、仕事の種類〔複数回答〕別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・日雇等(契約職員、派遣職員を含む))である285人が対象

しごと 仕事をしていく上で困ることは、「定期的な通院や健康管理との両 立」の割合が 27.0%

仕事をしていく上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」の割合が 57.5%、「困ることは特にない」が 40.4%となっている。

困ることの内容は、「定期的な通院や健康管理との両立」の割合が27.0%、「通勤時の混雑」が13.0%となっている。

仕事の種類別にみると、正規の職員・従業員では「困ることがある」の割合が 62.8%で、困ることの内容は「定期的な通院や健康管理との両立」が 32.4%となっている。(表V-5-4本文 270p)

表 V-5-4 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

ー性別、疾患群、仕事の種類〔複数回答〕別

			_													
		総数	困ることがある	仕事の内容	いじめなど) 人間関係(職場内での	内容が伝わらない相手に対して、言いたい	相手の言っていることが	バリアフリー 化が不十分職場の(物理的な)	勤務時間・日数	通勤距離・時間	通勤時の混雑	健康管理との両立定期的な通院や	配慮が無い急な体調の変化への	その他	困ることは特にない	無回答
総数		100.0 (285)	<u>57.5</u>	11.9	2.5	1.1	0.7	1.8	9.5	9.8	<u>13.0</u>	<u>27.0</u>	10.9	10.5	<u>40.4</u>	2.1
性	男	100.0 (137)	59.9	12.4	2.2	2.2	1.5	1.5	9.5	13.1	12.4	24.8	14.6	12.4	38.0	2.2
別	女	100.0 (148)	55.4	11.5	2.7	-	-	2.0	9.5	6.8	13.5	29.1	7.4	8.8	42.6	2.0
	神経·筋疾患	100.0 (29)	65.5	13.8	-	3.4	3.4	6.9	10.3	10.3	13.8	20.7	10.3	13.8	34.5	=
	免疫系疾患	100.0 (36)	44.4	8.3	5.6	-	-	-	2.8	5.6	8.3	25.0	11.1	13.9	52.8	2.8
	循環器系疾患	100.0 (12)	58.3	33.3	8.3	-	-	-	16.7	16.7	16.7	16.7	-	-	41.7	-
疾 患	血液系疾患	100.0 (12)	50.0	8.3	-	-	-	-	-	8.3	8.3	50.0	-	-	50.0	-
疾 患 群 別	腎·泌尿器系疾患	100.0 (22)	63.6	18.2	-	-	-	4.5	18.2	13.6	18.2	36.4	4.5	-	31.8	4.5
	骨·関節系疾患	100.0 (17)	64.7	17.6	-	-	-	-	11.8	11.8	23.5	29.4	17.6	5.9	35.3	-
	呼吸器系疾患	100.0 (10)	70.0	20.0	10.0	10.0	-	-	20.0	10.0	20.0	30.0	10.0	-	30.0	-
	消化器系疾患	100.0 (122)	59.0	9.8	1.6	-	8.0	0.8	9.0	10.7	9.8	27.9	14.8	13.9	38.5	2.5
複仕	正規の職員・従業員	100.0 (148)	62.8	14.2	2.7	0.7	0.7	0.7	11.5	13.5	13.5	<u>32.4</u>	10.1	11.5	35.1	2.0
数事 回の 答種	会社等の役員	100.0 (19)	57.9	10.5	-	-	-	5.3	5.3	10.5	10.5	21.1	5.3	21.1	42.1	-
当 撰	非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・ 日雇等(契約職員、派遣職員を含む))	100.0 (119)	51.3	9.2	2.5	1.7	0.8	2.5	7.6	5.0	12.6	21.8	12.6	7.6	46.2	2.5

注)疾患群別のうち、「聴覚・平衡機能系疾患」、「染色体または遺伝子に変化を伴う症候群」及び「耳鼻科系疾患」は該当者がいないため、「代謝系疾患」、「皮膚・結合組織疾患」、「内分泌系疾患」及び「視覚系疾患」は母数が少数のため、省略した。

2 経済基盤

(1) 収入の種類〔3つまでの複数回答〕-疾患群、年齢階級別

平成 29 年中の収入の種類を聞いたところ、「年金・恩給」の割合が 58.4%で最も高く、また、「賃金・給料」が 36.0%、「手当」が 17.0%となっている。

疾患群別にみると、「循環器系疾患」及び「消化器系疾患」では「賃金・給料」の割合がいずれ も 6 割を超えている (68.2%、63.2%)。 (表V-6-1 本文 276p)

表 V-6-1 収入の種類〔3つまでの複数回答〕-疾患群、年齢階級別

		総数	賃金・給料	事業所得	内職収入	家賃・地代	利子・配当	仕送り・小遣い	養育費・慰謝料	年金·恩給	生活保護費	手当	雇用保険	保険金・補償金	作業所等の工賃	その他の収入	収入はなかった	無回答
総数		100.0 (899)	36.0	2.4	0.2	3.9	2.6	2.0	-	<u>58.4</u>	3.4	<u>17.0</u>	0.3	1.7	=	3.6	6.5	0.8
	神経・筋疾患	100.0 (238)	16.0	2.9	-	5.5	4.2	0.8	-	77.7	5.5	15.1	-	2.5	-	1.7	5.5	2.1
	皮膚·結合組織疾患	100.0 (37)	27.0	5.4	-	-	-	-	-	64.9	-	21.6	-	2.7	-	5.4	10.8	2.7
	免疫系疾患	100.0 (158)	31.0	1.9	0.6	3.2	3.2	2.5	-	54.4	6.3	20.3	0.6	2.5	-	5.7	7.6	0.6
	循環器系疾患	100.0 (22)	68.2	-	-	4.5	-	-	-	50.0	4.5	27.3	-	-	-	-	-	-
疾患群別	血液系疾患	100.0 (36)	30.6	2.8	-	5.6	2.8	-	-	66.7	-	13.9	-	-	-	5.6	2.8	-
	腎·泌尿器系疾患	100.0 (40)	52.5	2.5	2.5	-	-	7.5	-	37.5	-	22.5	-	5.0	-	2.5	7.5	-
	骨·関節系疾患	100.0 (68)	30.9	2.9	-	5.9	2.9	4.4	-	70.6	4.4	20.6	1.5	-	-	4.4	-	-
	内分泌系疾患	100.0 (20)	40.0	-	-	5.0	_	-	-	40.0	-	5.0	_	5.0	-	5.0	20.0	-
	呼吸器系疾患	100.0 (38)	28.9	2.6	-	5.3	2.6	2.6	-	63.2	-	10.5	2.6	-	-	5.3	7.9	-
	視覚系疾患	100.0 (29)	24.1	-	-	-	-	-	-	82.8	-	17.2	-	-	-	-	3.4	-
	消化器系疾患	100.0 (204)	<u>63.2</u>	2.5	-	2.9	2.0	2.5	-	34.3	2.0	14.7	-	0.5	-	3.4	8.3	-
	29歳以下	100.0 (23)	91.3	-	_	-	-	8.7	-	13.0	4.3	47.8	-	4.3	-	4.3	_	-
	30~39歳	100.0 (57)	66.7	1.8	1.8	-	1.8	3.5	-	10.5	3.5	31.6	1.8	-	-	3.5	14.0	-
_	40~49歳	100.0 (118)	76.3	1.7	0.8	1.7	2.5	2.5	-	5.1	2.5	28.8	-	8.0	-	5.1	8.5	8.0
年齢	50~59歳	100.0 (144)	54.9	3.5	-	2.1	0.7	2.1	-	11.1	6.9	25.0	-	2.8	-	4.2	17.4	0.7
階級	60~69歳	100.0	36.4	2.0	-	5.6	2.5	3.0	-	75.8	3.5	14.1	0.5	2.0	=	4.0	5.1	1.5
別	70~79歳	100.0 (228)	9.6	3.5	-	4.8	3.9	0.9	-	95.2	2.6	7.5	0.4	1.3	=	2.2	1.8	0.9
	80歳以上	100.0	1.5	1.5	-	6.1	3.1	-	-	96.9	1.5	6.9	-	1.5	-	3.1	0.8	-
	(再掲)65歳以上	100.0 (486)	13.0	2.5	-	5.3	3.5	1.0	=	94.9	2.7	9.1	0.2	1.6	=	2.5	1.2	0.6
平成2		100.0 (1,034)	29.2	3.2	0.4	5.6	2.6	2.2	0.1	61.4	0.2	24.2	0.5	1.1	0.3	3.6	6.6	0.6

注)疾患群別のうち、「聴覚・平衡機能系疾患」及び「耳鼻科系疾患」は該当者がいないため、「代謝系疾患」及び「染 色体または遺伝子に変化を伴う症候群」は母数が少数のため、省略した。

(2)年間収入額(生活保護費を除く)-疾患群、年齢階級別

年 収 は「50~100万円未満」の割合が 17.7%

平成 29 年中の収入額を聞いたところ、「50~100 万円未満」の割合が 17.7%、「100~150 万円未満」が 11.2%となっている。 (表V-6-2 本文 279p)

表 V-6-2 年間収入額(生活保護費を除く) -疾患群、年齢階級別

		総数	収入なし	50万円未満	5 0~ 1 0 0 万円未満	100~150万円未満	150~200万円未満	200~250万円未満	250~300万円未満	300~400万円未満	400~500万円未満	500~600万円未満	600~700万円未満	1,000万円未満700~	1,500万円未満	1 , 5 0 0 万円以上	無回答
総数	Ţ	100.0 (899)	7.2	10.2	17.7	11.2	7.9	10.7	6.2	7.9	4.8	3.1	2.8	3.0	1.4	1.1	4.7
	神経・筋疾患	100.0 (238)	8.4	9.2	21.8	10.5	10.5	11.3	5.0	7.6	3.4	1.3	2.5	1.3	0.4	1.3	5.5
	皮膚·結合組織疾患	100.0	10.8	10.8	18.9	16.2	8.1	16.2	5.4	5.4	-	2.7	-	-	-	-	5.4
	免疫系疾患	100.0 (158)	8.9	15.2	22.2	12.0	10.1	11.4	1.9	5.7	2.5	1.9	1.9	1.3	1.9	-	3.2
	循環器系疾患	100.0	-	9.1	4.5	13.6	-	22.7	4.5	22.7	9.1	4.5	4.5	4.5	-	-	-
疾患群別	血液系疾患	100.0	2.8	8.3	8.3	16.7	2.8	13.9	11.1	11.1	-	8.3	-	2.8	-	8.3	5.6
	腎•泌尿器系疾患	100.0 (40)	5.0	12.5	7.5	7.5	10.0	17.5	7.5	12.5	-	-	5.0	10.0	2.5	-	2.5
	骨·関節系疾患	100.0	1.5	8.8	19.1	14.7	5.9	11.8	14.7	5.9	2.9	4.4	1.5	5.9	-	1.5	1.5
	内分泌系疾患	100.0	15.0	-	10.0	5.0	10.0	5.0	10.0	-	10.0	10.0	-	5.0	5.0	-	15.0
	呼吸器系疾患	100.0	7.9	13.2	18.4	15.8	5.3	2.6	-	15.8	5.3	-	-	2.6	-	2.6	10.5
	視覚系疾患	100.0	3.4	10.3	10.3	20.7	13.8	6.9	3.4	10.3	3.4	3.4	-	3.4	-	-	10.3
	消化器系疾患	100.0 (204)	7.8	7.8	15.7	7.4	4.9	7.8	7.8	7.4	10.3	5.4	5.9	4.4	3.4	0.5	3.4
	29歳以下	100.0	-	17.4	17.4	13.0	8.7	-	13.0	8.7	17.4	-	-	-	-	-	4.3
	30~39歳	100.0 (57)	14.0	12.3	7.0	5.3	3.5	7.0	5.3	14.0	14.0	7.0	5.3	5.3	-	-	-
_	40~49歳	100.0 (118)	10.2	9.3	11.9	2.5	2.5	8.5	5.9	7.6	11.0	9.3	8.5	6.8	4.2	8.0	8.0
年齢	50~59歳	100.0 (144)	18.8	11.8	10.4	7.6	4.2	6.9	4.2	8.3	3.5	3.5	3.5	6.9	4.2	0.7	5.6
階級	60~69歳	100.0 (198)	6.6	10.6	21.2	12.1	12.1	10.6	4.5	9.1	3.5	0.5	2.0	1.5	-	2.0	3.5
別	70~79歳	100.0 (228)	1.8	7.9	24.1	16.2	9.2	13.6	6.6	5.7	1.8	2.6	0.9	1.3	0.4	0.9	7.0
	80歳以上	100.0 (131)	0.8	10.7	19.1	15.3	9.9	15.3	9.9	6.9	1.5	0.8	0.8	_	0.8	1.5	6.9
	(再掲)65歳以上	100.0 (486)	1.6	8.8	22.4	15.8	10.5	14.0	6.8	6.8	2.3	1.4	1.0	0.8	0.4	1.2	6.0
平成	25年度	100.0 (1,034)	6.6	13.5	22.3	11.3	9.2	9.1	5.8	7.4	3.6	2.5	2.4	2.3	1.1	0.9	1.9

注)疾患群別のうち、「聴覚・平衡機能系疾患」及び「耳鼻科系疾患」は該当者がいないため、「代謝系疾患」及び「染 色体または遺伝子に変化を伴う症候群」は母数が少数のため、省略した。

3 社会参加等

社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

- 疾患群、平日の日中主に過ごしたところ別

「しゃかいきんか 社会参加をする上で妨げになっていることは、「病状に変化があること」の割合が 26.1%

社会参加をする上で妨げになっていることがあるか聞いたところ、「病状に変化があること」の割合が 26.1%となっている。一方で、「特にない」の割合は 45.2%となっている。(表V-7-3本文 283p)

表 V-7-3 社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

一疾患群、平日の日中主に過ごしたところ別

		総数	経済的な理由	介助者がいない	情報がない	対する理解不足周りの人の難病患者に	病状に変化があること	できる施設が無いこと病状によって利用	適切な相談相手がいない	一緒に行く仲間がいない	配慮がされない ※ かんかつ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	その他	特にない	無回答
総数		100.0 (899)	11.3	7.1	5.9	8.0	<u>26.1</u>	3.8	2.0	4.0	2.3	11.7	<u>45.2</u>	1.7
	 神経・筋疾患	100.0	6.7	16.4	9.2	8.8	25.2	5.9	1.3	3.8	1.3	18.1	34.0	1.7
	皮膚・結合組織疾患	(238) 100.0 (37)	10.8	5.4	10.8	2.7	27.0	5.4	2.7	2.7	-	5.4	54.1	2.7
	免疫系疾患	100.0 (158)	17.7	5.7	5.1	8.2	35.4	4.4	1.3	4.4	3.8	10.8	39.2	0.6
	循環器系疾患	100.0	18.2	-	-	13.6	27.3	-	-	4.5	9.1	13.6	50.0	-
疾	血液系疾患	100.0	8.3	-	2.8	2.8	33.3	2.8	2.8	2.8	5.6	11.1	44.4	2.8
患		100.0	10.0	-	-	15.0	20.0	-	2.5	2.5	7.5	5.0	62.5	2.5
群別	骨·関節系疾患	100.0	8.8	8.8	2.9	5.9	14.7	2.9	2.9	4.4	2.9	11.8	52.9	4.4
	内分泌系疾患	100.0	5.0	-	-	10.0	35.0	-	-	-	-	5.0	55.0	5.0
	呼吸器系疾患	100.0	7.9	5.3	5.3	7.9	26.3	10.5	2.6	2.6	2.6	13.2	50.0	-
	視覚系疾患	100.0	13.8	10.3	13.8	-	3.4	3.4	-	6.9	-	20.7	34.5	6.9
	消化器系疾患	100.0 (204)	13.7	0.5	4.9	6.9	25.0	1.0	2.9	4.9	1.0	6.9	55.4	0.5
<u></u> 主_	自分の家	100.0 (615)	10.9	8.1	6.3	8.0	29.3	3.9	2.1	4.2	2.3	12.8	40.3	1.6
主に過ごし来日の日	職場(福祉的就労の施設を除く)	100.0 (225)	14.2	0.9	4.9	7.6	18.2	1.8	1.8	3.1	3.1	4.0	61.8	0.9
<i>m</i> –	通所施設(生活介護、デイセンター、 地域活動支援センター等を含む)	100.0 (12)	16.7	16.7	8.3	16.7	41.7	8.3	-	8.3	-	41.7	8.3	-
がた中	入所施設•入院施設	100.0	3.6	35.7	7.1	14.3	25.0	17.9	-	7.1	-	28.6	25.0	-
平成25年	平成25年度		10.8	5.6	4.1	8.2	31.1	7.2	2.9	5.3	•••	10.4	44.1	1.4

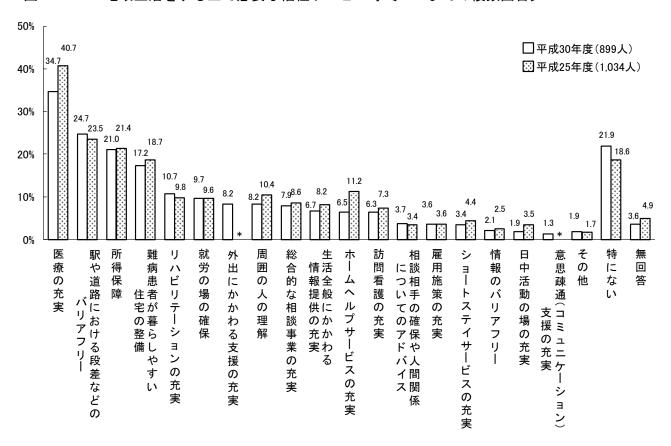
- 注1)疾患群別のうち、「聴覚・平衡機能系疾患」及び「耳鼻科系疾患」は該当者がいないため、「代謝系疾患」及び「染色体または遺伝子に変化を伴う症候群」は母数が少数のため、省略した。
 - 2) 平日の日中主に過ごしたところ別のうち、職場(福祉的就労の施設)は該当者がいないため、学校及びその他は母数が少数であるため、省略した。
 - 3) ※は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。

4 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

「医療の充実」が必要であると答えた割合が 34.7%

地域生活をしたり、しようとする上で、必要な福祉サービス等を聞いたところ、「医療の充実」の割合が 34.7%、「駅や道路における段差などのバリアフリー」が 24.7%、「所得保障」が 21.0% となっている。 (図V-10-1 本文 301p)

図 V-10-1 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕



注) *は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。